水
蜜
桃
—海底版—

水蜜桃

聖
聖 聖
あなたさえ
いてくれれば
わたしは――

夢　かあ

水蜜桃

のそり
あら
おはよう村紗(むらさ)
早いのね
一輪(いちりん)
ガルル
あんたまさか
昨晩からずっと?
まさか

私もさっき起きたばかりよ
今日は大切な日だっていうのに
無茶はしないわよ

一輪は要領いいなぁ
もうこんなに片付いてる

雲山がやってくれるから

……
……早く着なさいよ

……

へ。
はぁい

スー…
あなたも早いわねナズーリン
さあ寺の朝はもっと早いものだと思ったが
星はまだ寝ているの？
おいしそう
どうやら二百年以上に渡る自堕落な生活にすっかり蝕まれていたようだ
もう少し寝かせておいて差し上げようじゃないか

準備はできたのか？
フル
フル
というより動くのか
こく
こく
ぐーん
あのね　私の船よ何百年かブランクがあったからって
そう簡単に壊れたりしないわ
ふむ
まあそういうことにしておこう
気になる言いかたねえ
別に
星のほうこそ大丈夫なの？聖の封印を解く準備は
問題ない
宝塔はあるんだあとは飛倉の欠片を集めてやれば
聖は復活する

うーん

大丈夫かって言うのはね

星自身の問題なのよ

……

どういう、意味かな？

星は

聖を開放して差し上げるつもりがあるのかしら？

……村紗船長、私にははっきりとはわからないが

あまり穏やかで無いことを言おうとしているならやめたほうがいい

あの時の状況は君も含め皆もわかっていたし納得もしていた

理屈ではね

理屈ではない何かまで私がどうこうするのは無理な相談だな……

ところで船長

君と一輪は地底の封印が解けて地上に出たとき仲間にも声をかけたんだろう？

ええ

今この寺には君と一輪しかいない

他の者はどうした

完全に力が戻っていなくてまだ地上に出られないんだって

船の中からいられるけど外にはでられないひともいるわ

私と一輪ふたりだけって訳じゃないのよ

ふぅん……

スワッ

ごちそうさま

まあ　そんなに心配なら少しメンテナンスしてくるわ

……

頼むよ　船長

う〜ん

おいしいっ

これで仲間とおいしいご飯が食べられるわ

ありがとう神様感謝感謝　だわ

はら、雲山も一緒に

いやあ〜

こんなに喜んでくれるんなら神様冥利に尽きるわ

春もまだだってのに外からも中からも信仰心が入れ食いよ

ほんとガッポ――

――…うん

デレ

デレ

とにかくいいのよ私だって嬉しいのっ

帰ったら早速準備しよう
あ　ねえ神様
良かったら一緒に食べませんか？
え　でもお邪魔じゃあ……
大丈夫大丈夫みんなやさしくて
敬虔なひとたちばかりですよ
けっ敬虔っ……
！
あれなにかしら
あれは――
ズ
ズ
聖輦船です

聖輦船……

姐さんを……立派な僧侶を乗せるための船

私たちがこれに乗って姐さんを迎えに行くの

僧侶？ えっ 仏教徒？

スッ

オオオオオオオオ オオオオオオオ

トン
私たちの
じゃあないんだよ
この船は
私のだよ
そして
聖も
ピ
チャー

ナズーリン
はい
さあ
あなたが私を起こしてくれたことに私は感謝するべきなんでしょうね
べきかどうかなんて私が決めることじゃない
今までみたいに日がな一日死体のようにのんびりしていると世話は楽でいいが
従者としてはもっと溌溂とした主人の姿も拝見したい
……
前は
聖がいましたから

その聖を取り戻すのでしょう？わかりやすくていいと思います

……この手で聖を封印しました

知っていますみんな知っている

それが一番聖の苦痛が少なくて済んだ

妖怪と人間の総力戦にもならずに済んだ

あの決断は私が今まで仕えてきたひとたちの中でも一、二を争う英断だったと思う

そうでしょうかあの時は確かにそう思いました

なぜ揺らぐ船長があんなことを言っていたから？

……村紗はいい子です

さっきは……気が立っていたのでしょう

彼女が聖の封印に手を貸した私に複雑な思いを抱くのは仕方のないことです

気が立っていたなんて生易しい言葉で済ませられるかな

私が前にいながら私が見えていないようだった

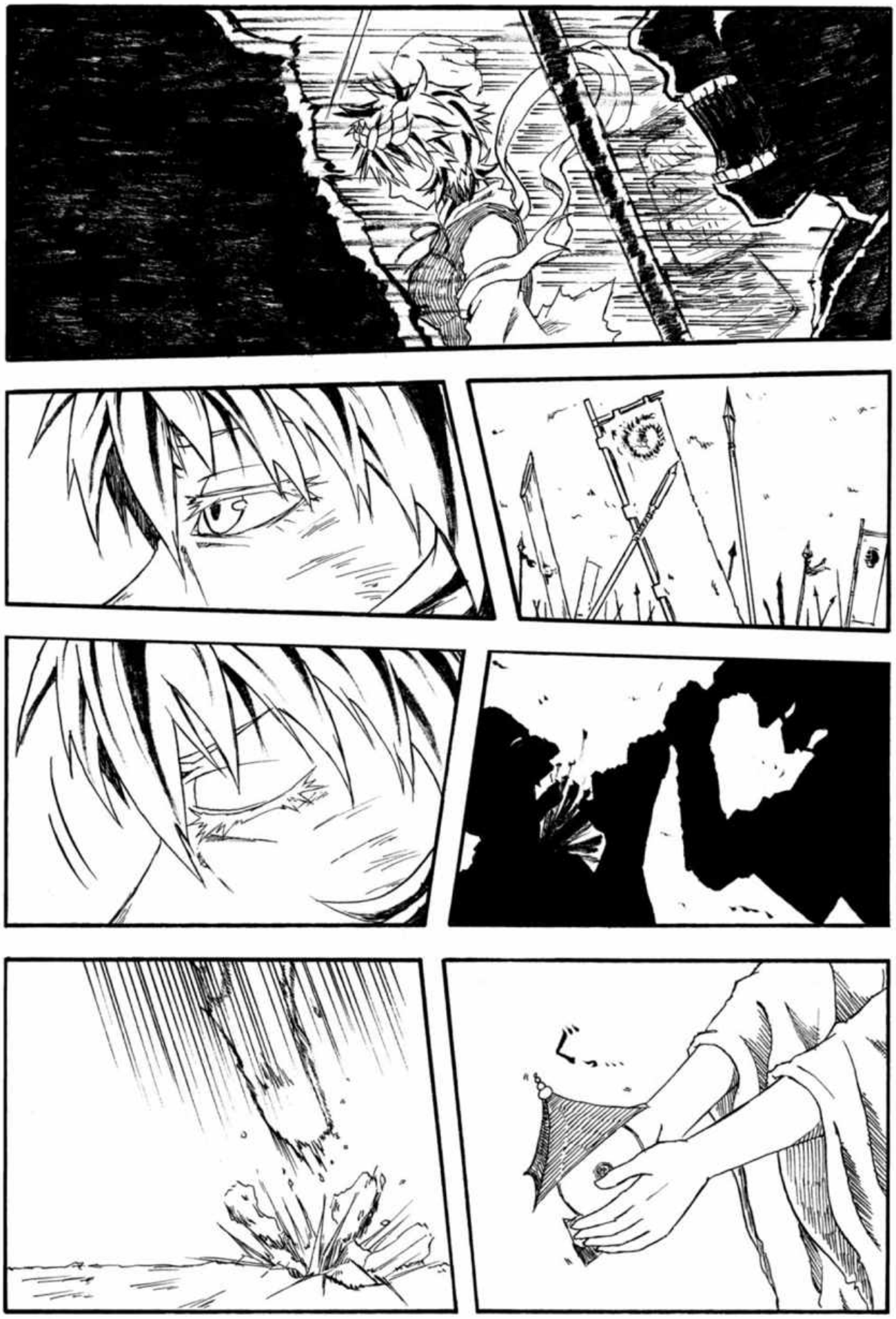
……長い間私たちは離れていました

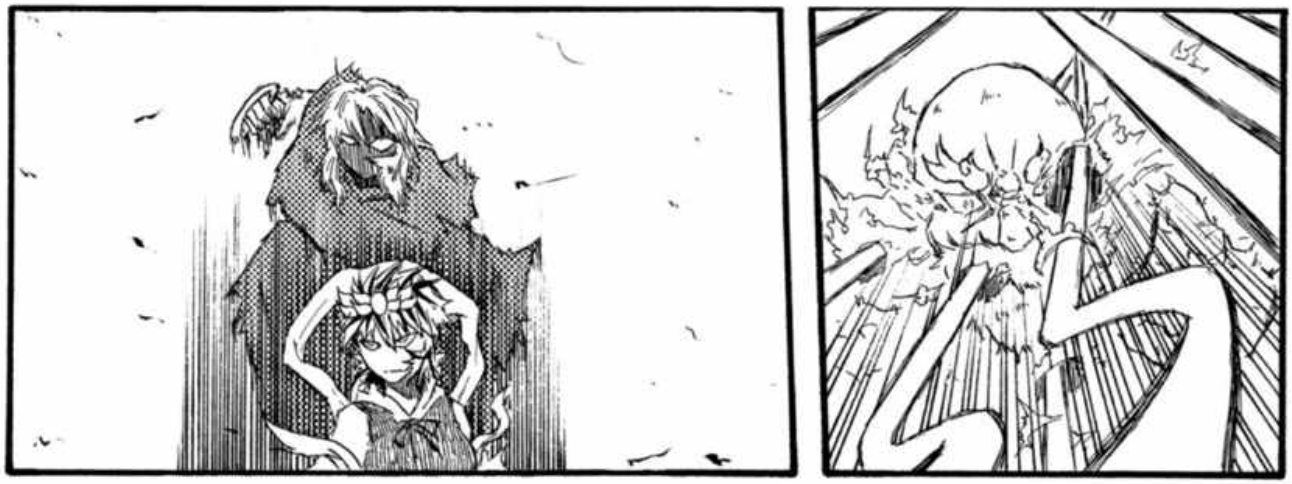
それで戸惑っているのですよ

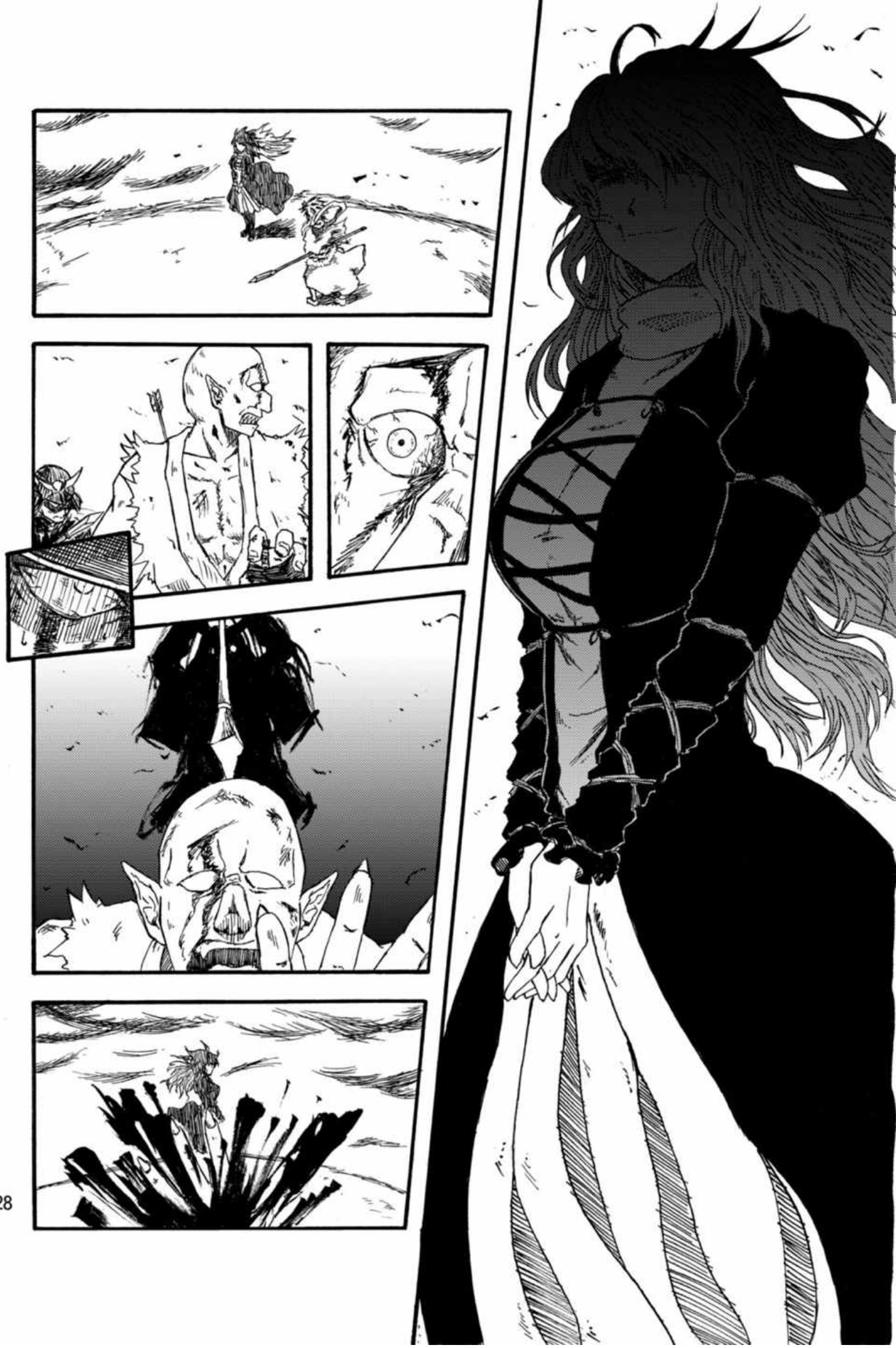
私たちも

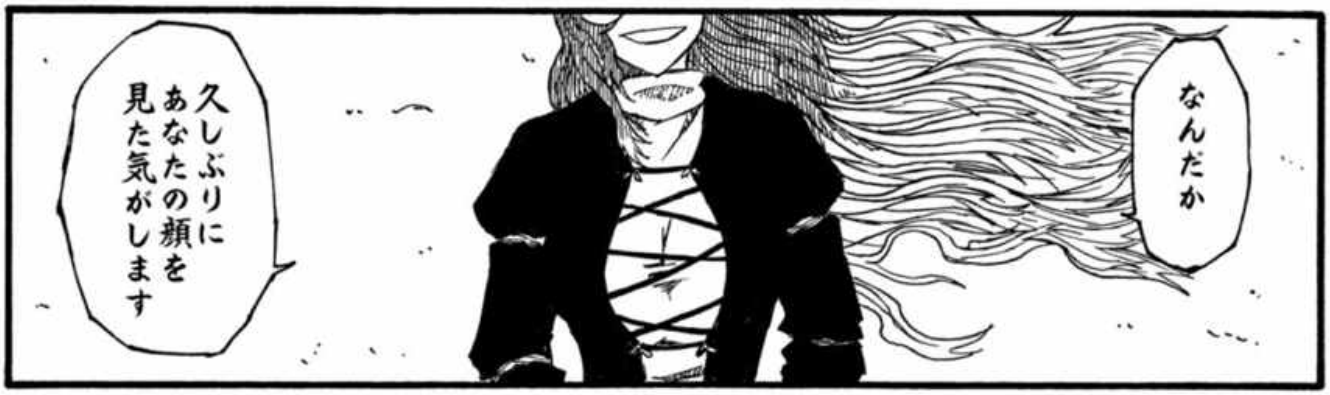
村紗も

そうかな
まあ
そうかもしれない
あなたが万全でなければこの計画は頓挫する
それは確かです
ごゆっくり鋭気を養ってください
ストン…
ご主人様
……


ぐっ…





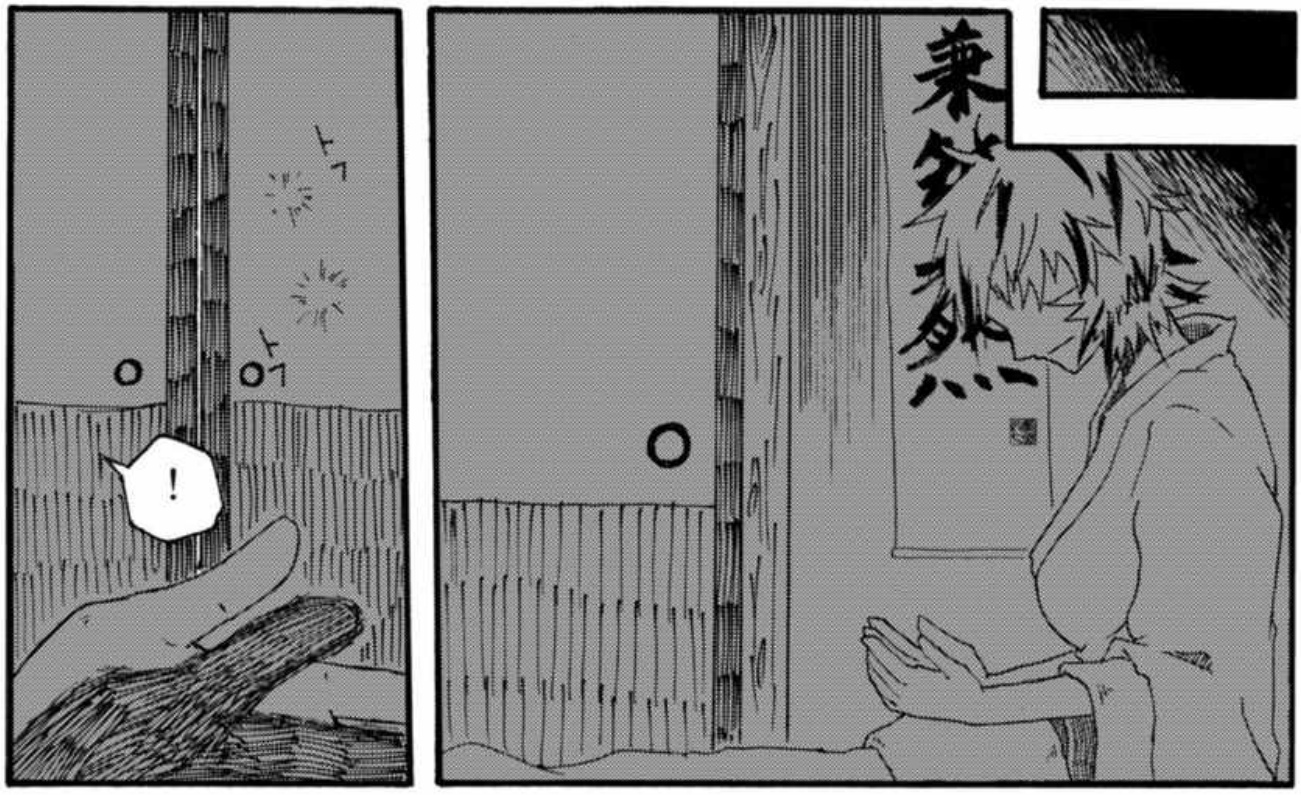

なんだか
久しぶりに
あなたの顔を
見た気がします

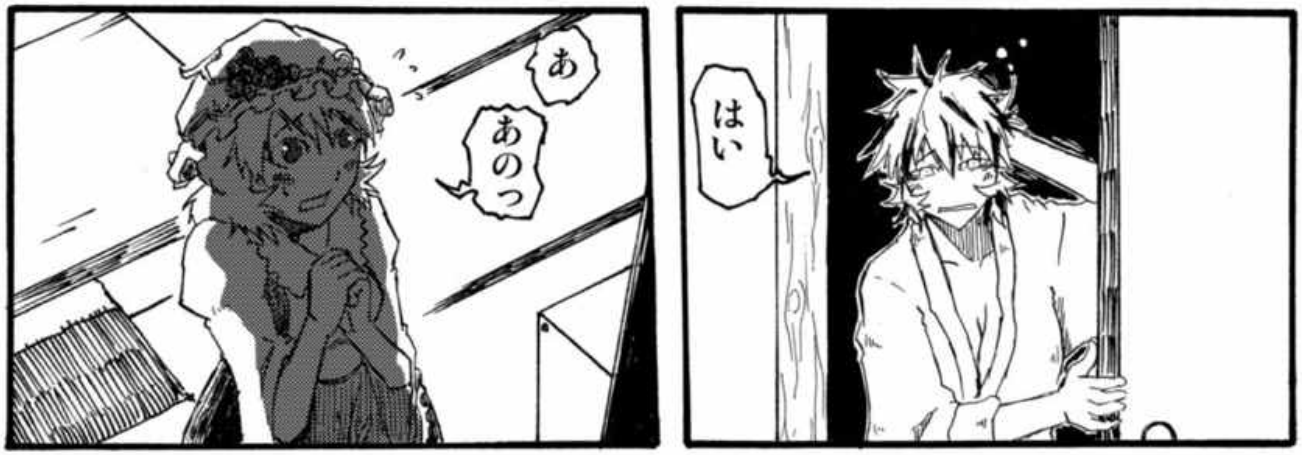
寅丸星(とらまるしょう)
聖……

私は
ぎゅう…

ズ
ズ
ジワ…
ズ
カ
ア
オオオ…
スッ
聖
私も

いいのです
わかっていますよ


兼久然
トク
トク
！

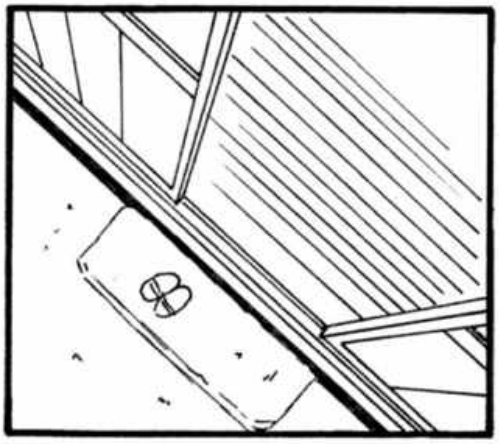

はい
あ
あのっ

お仕事中すみません
私秋穣子と申します
あっ……いいえいやこちらこそお構いもせずすみません
寅丸星と申します
……
どうされました？

あの
雲居さんが
その……

それに
なんだか

あの船



一輪
ナズーリン

そんな姿で
はしたない
ご主人
すみません
しかし……

いったい
これは……

どうして……

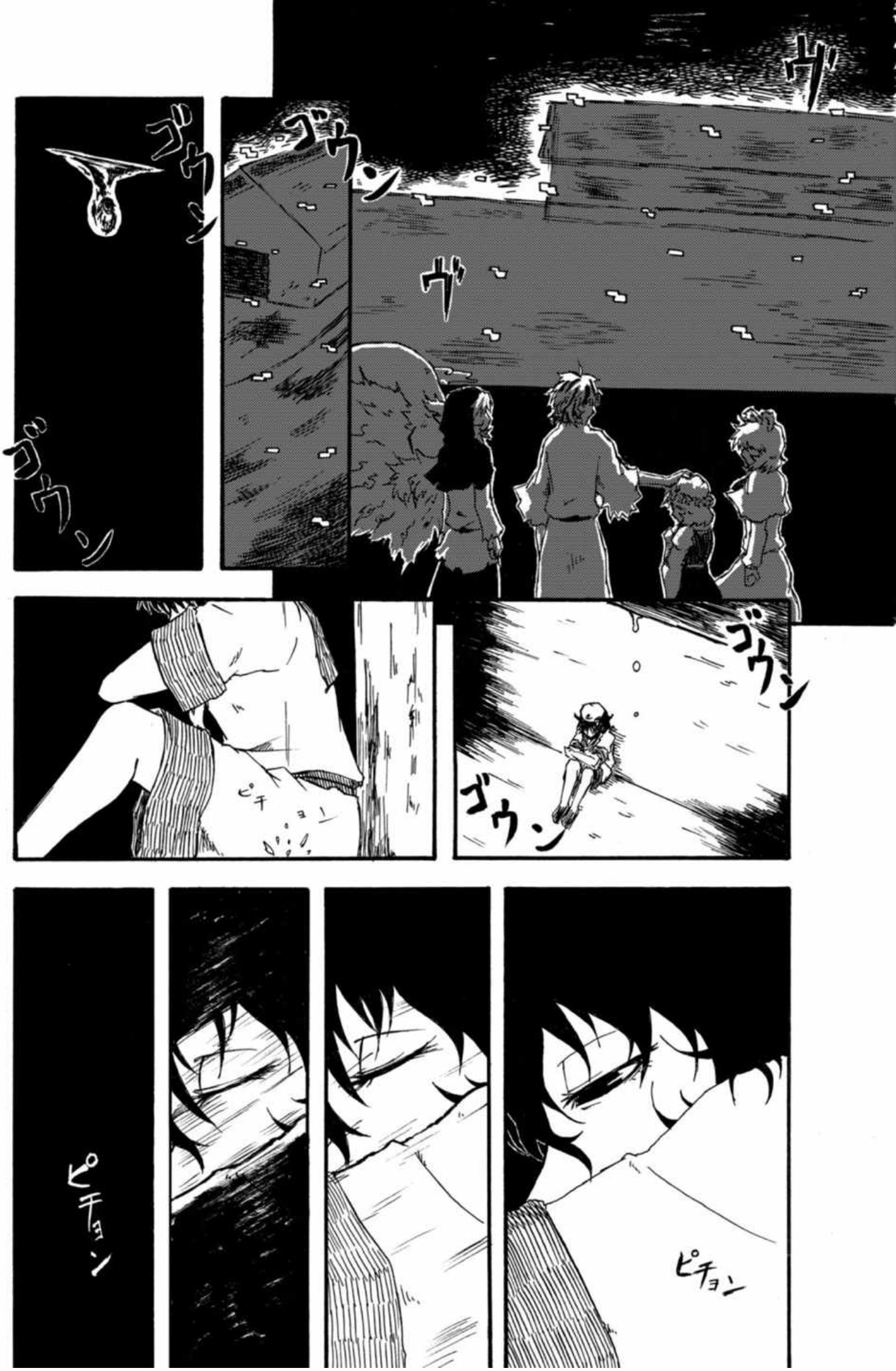
ゲ

ゲ

ゲ

村紗

秋さん
私たちは本当に仲がいいんです
苦しいときも悲しいときも
その想いを分かち合ってきました
けれど
あまりに苦しいとき
もしくはあまりに心地いいとき
それを誰かに八つ当たりしたり
独占したくなったりするものなのです
ゴ
ゴ
ゴ
あ……
ポス
ひょっとしたらこの辺りも危険なことになるかもしれません
逃げてください


ゴウン
ゴウン
ゴウン
ゴウン
ゴウン
ピチョン
ピチョン
ピチョン

この髪に
今までどれだけの
ひとが触れて
きたのだろう
フッ
フ…
こんなにも
白蓮に触れている
そう考える
だけで
たまらない
気持ちになる
みんなのために
と白蓮は言う
どうしたの
誰にも
渡したくない
手が止まって
いるわ
みんなの
中の誰にも

白蓮の
やさしさも
慈悲も

ほほえみも
興味も
関心も

そして
欲望も

何か考えごと
でもしている
のですか？

ええ
しています
どんな？

水蜜
これはもう
決まった
ことなのです

ここからあなたを
出さないためには
どうするか

いけば
あなたは人間に
囚われます

あなたが仲間と
思っていた
あの薄汚い連中に

あいつらは
あなたのことを
なにひとつわかって
いないんです

あなたが
どんな風に
笑うのか

どんな風に
がんばっているのか

それがどれほど
私たちを
悦ばせて
くれるか

水蜜

私は

あなたは私のため
ではない
私たちのために
してくれたんです

それでもいい
私は満足
なんです

あなたの
気持ちが
どうであれ

私だけ
の……

同じように
あなたを慕うひとが
いるのは構わない

けれどあなたの
良さをなにひとつ
わからない連中が
あなたを蹂躙するのは
我慢がならない

そんなことを
する奴らは

全員海の底に
引きずり込みます

水蜜

そんな風に
考えては
いけません

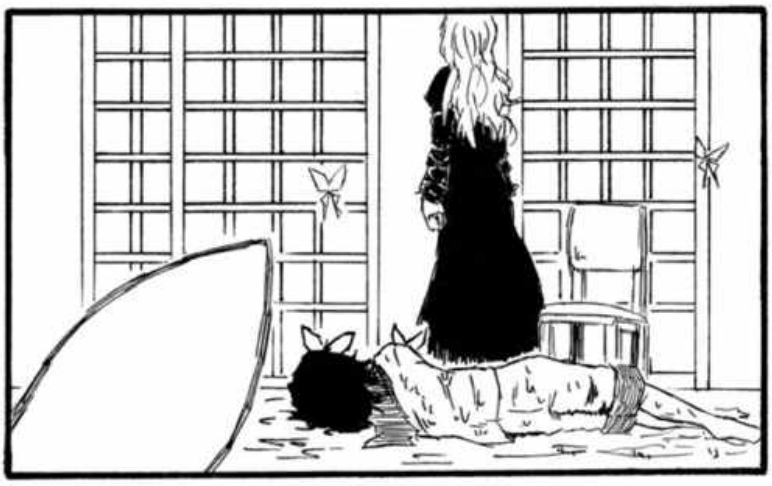
なぜ

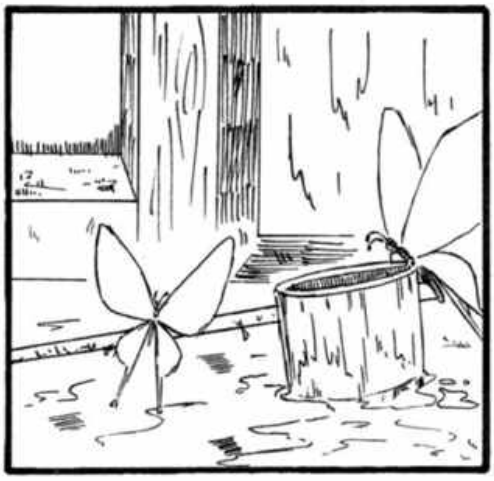
憎しみが憎しみを生むのです
ええ
そうでしょう
白蓮の体に自分の体をつけていると
ザー
ザー

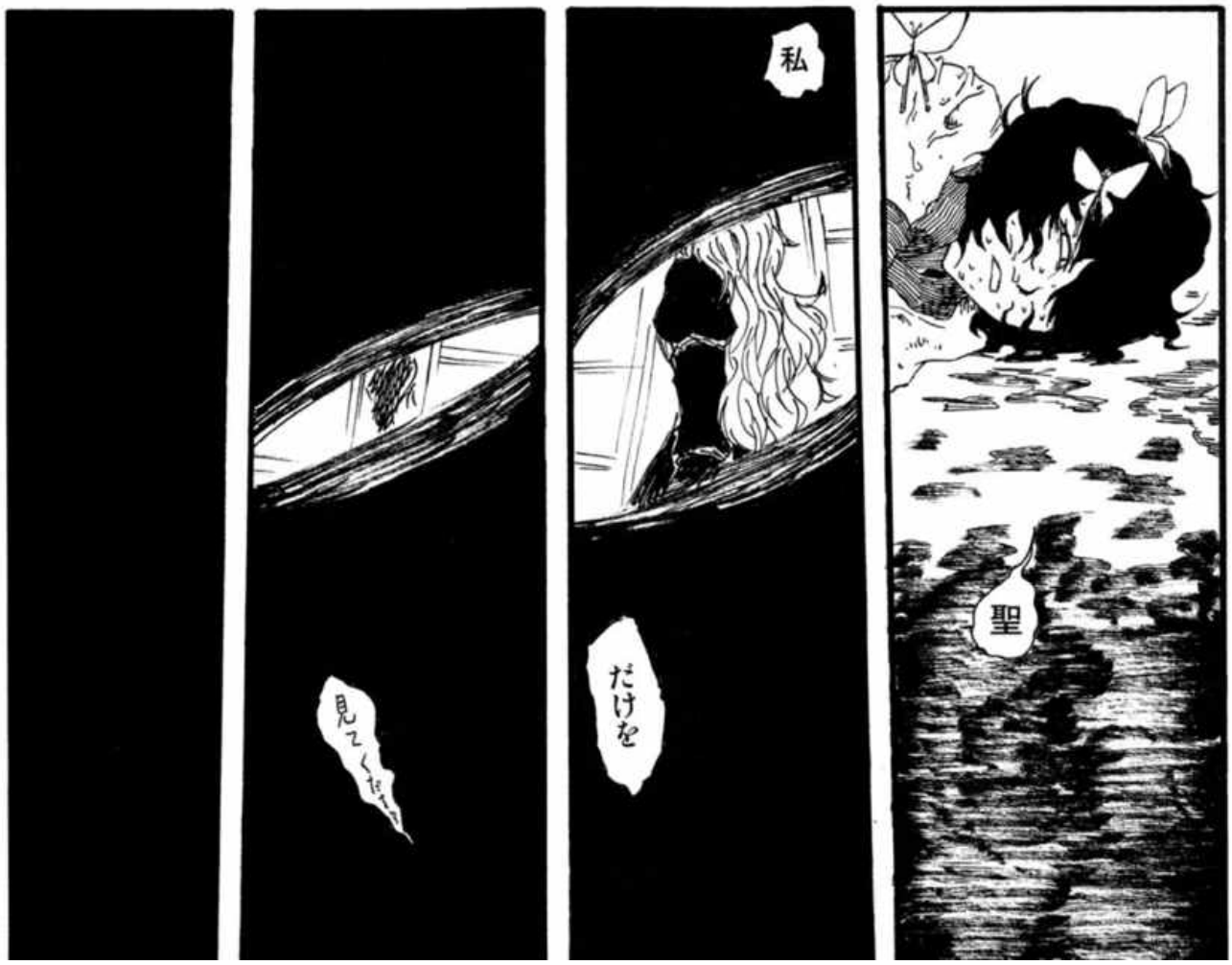
体の奥に溜まっている
欲望が
欲望を
嫌なものが
ちゃぷ…
生むように

解けて流れていく気がする
ちゃぷ
ちゃぷ
ボボ
水蜜
もう行かないと
ちゃぷ

どこへ？
ゴポ
した
した
ピチョン
綺麗です
ば
聖
コポ
魔界蝶はなんでも飲み食いします
あなたの水は特に甘いから
蝶も喜んでますね






聖
私
だけを
見てください

わあ いいなあ
綺麗ですね 聖
ええ 本当に
なんだか頬を 染めている みたいね
頬を？
木なのに……

木でもなんでもいいのですよ

えい
こっし

パシ

団栗が落ちていました

だから拾いました

何してるんですか聖

ウ
ペチーン
ベチ
ベチ
どうしたんですかいきなり
水蜜
やっぱりあなたを連れてきてよかったわ
たまらない
とくん
とくん
この感覚はやみつきになる

水蜜
水蜜
もっと名前を呼んで欲しい
もっと必要としてほしい
もっと求めてほしい
私があなたを求めているくらいに……
えっ？
！
ハッ
水蜜……
あなたは
私が必要なの？
ええ
誰よりも

ありがとう
私は誰かに必要とされないと生きていけないの
弟みたいに自分で自分の生きる道を見出すことなんてできなかった
老いが怖かったから
それだけの理由で魔法を学んだ
弟が死んだあとも
私は若くあり続けた
そうしてどうしようもないほど退屈で寂しくなったの
でも死ぬのはやっぱり怖かった
どうしようもなかったどこに行っても道は塞がっていた
思い出したくもない昔のことよ

あの頃は弟に会いたくて会いたくて

でもお墓を参る勇気がなくて

いつの間にか弟の墓自体を何か怖いものに思えていた

今でもその名残かしらね

ひとりで命蓮の墓の前に立つと緊張してしまうの

よかった今日あなたがいてくれて

妙蓮にも胸を張って言えるわ

今は――

あなたたちがいるから生きていける

――と

あなたたち

白蓮がどれだけ利己的だろうと構わない

人間たちが都に退魔師や僧兵を集めています

昔どうだったのか

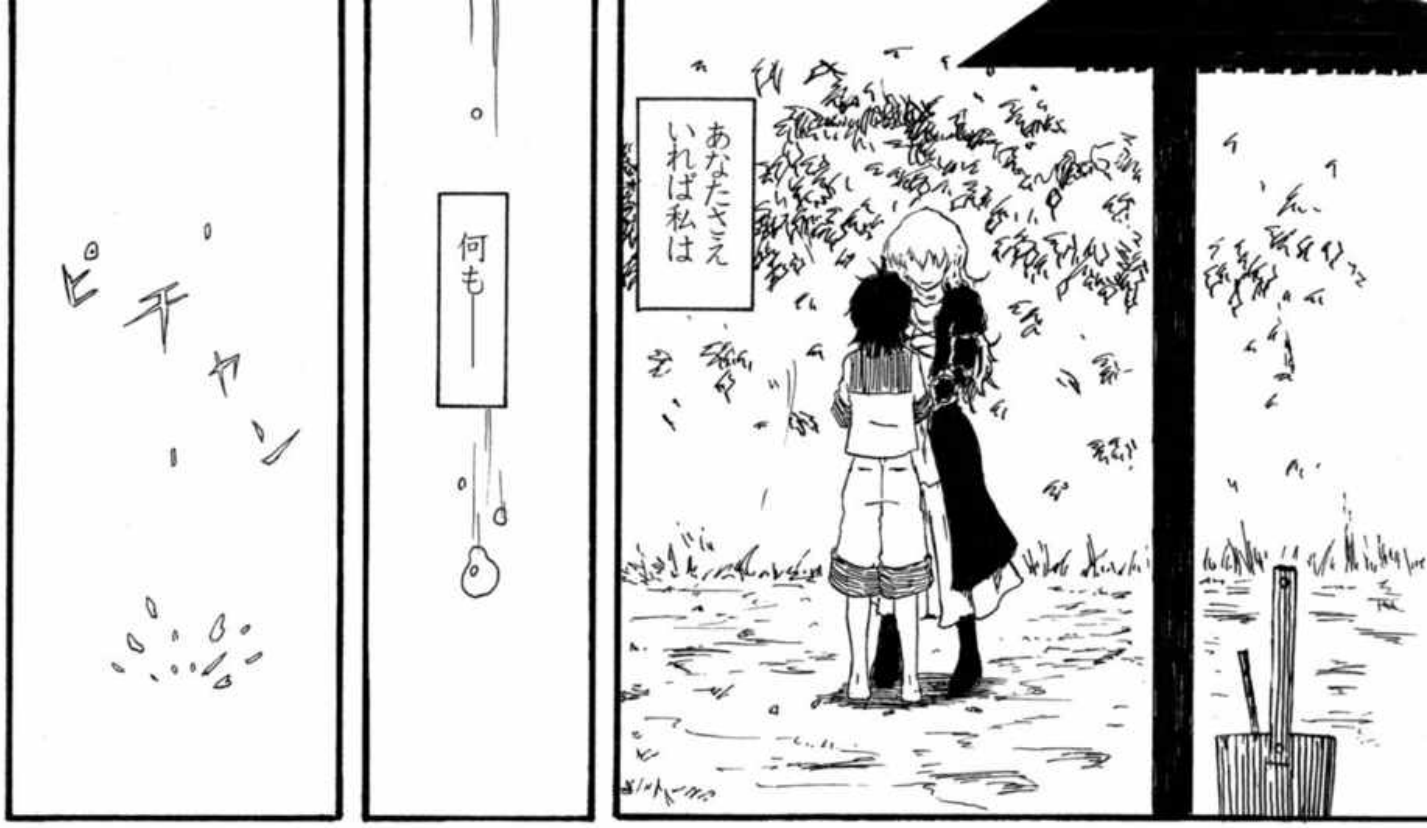
あなたたち妖怪を一掃しようと考えているに違いありません

現在はどうなのか

危険です

そんなことは問題じゃない

そんなことはどうでもいいのです


あなたさえいれば私は
何も――
ピチャン

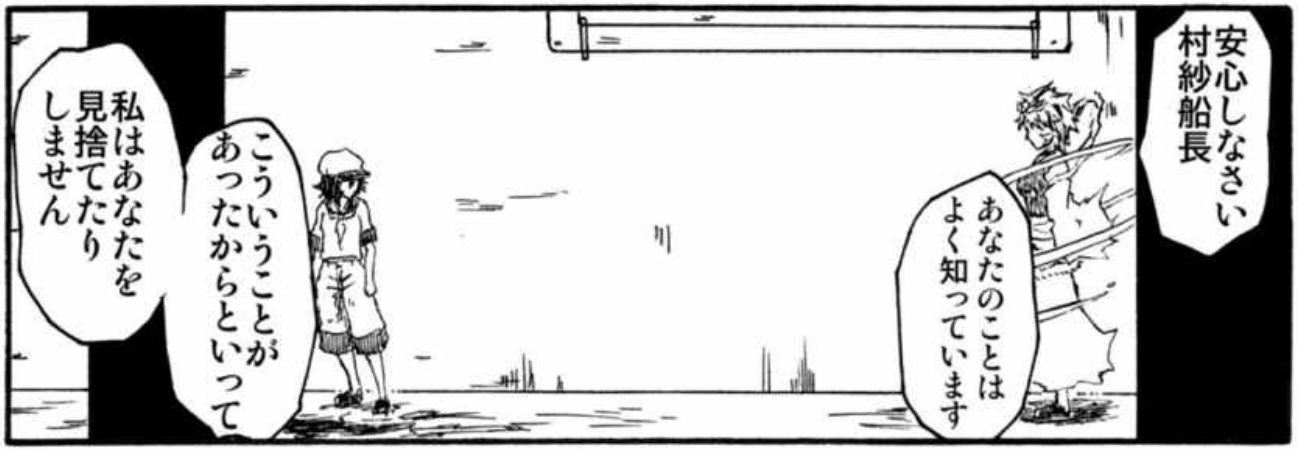
ピチョン
ギシィ
ピチョン
……
あなたは止めてほしかったのでしょう

ぐっ…
!!
星…ッ
自分が間違っていることは承知の上だった
それでも感情の迸りを抑えつけることができなかった
だから誰かに止めてほしかった
違うわ

いいのです
ひとは過ちを犯します
私もまた
ドン

そうなのですから

……


安心しなさい村紗船長
あなたのことはよく知っています
こういうことがあったからといって
私はあなたを見捨てたりしません

好き勝手に……ッ
もう抵抗しなくていいのです
たとえあなたが万全の状態であったも

率直に言って私が遅れを取ることはありません

例えば一輪と二人がかりなら
もう少し状況は変わるかもしれませんが
やはり結果は同じでしょう
ドン

言ってくれるね

私が勝ちます

やってみなさいよ

ボゴ
ゲゲゲ…
始まったようだね
ゴ…ン…
大丈夫かしら星……それに村紗……
ご主人なら心配ない船長は
今話しが通じる相手じゃないだろう
その点でもご主人が適任だ
馬鹿村紗……姉さんが知ったらなんと言うことか……
すぐに醒めるさ
……!
ここら辺か……

ここ……って
え？
ズズ…
これ全部探すの？
よ よし 片端から壊して……
壊してどうする
仲間も壊す気か
大丈夫
すぐに終わる
チチ
頼むぞ
ぞぞぞぞぞぞぞぞ
私の小鼠たち
村紗……

ズズ…
村紗
他の妖怪はどこにいったのですか
さあ――
ググ
ねっ
合わせ鏡
ビヨン

！
合わせ鏡の右には未来の世界が左には過去の世界が
ただ合わせただけじゃそんなことはできない儀式をしなきゃ
神社や神輿なにか大きくて目立つものがあればいい
そして供物
……
私たちはみんな
この船の餌
鏡の向こう過去へ行って
聖を助け出す
幽霊船の時空を超えた旅
よ
ゴォ

ドッ
カッ
ディープ
ヴォーテックス
!!

ザバッ
撃沈
アンカー
ボ
まだまだあッ
ザッ

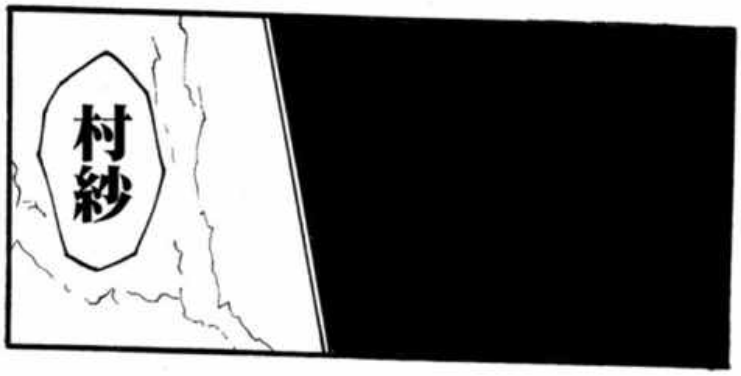
ギチッ
ドカ
ドドドドドドドド
ゴゴゴゴゴゴ

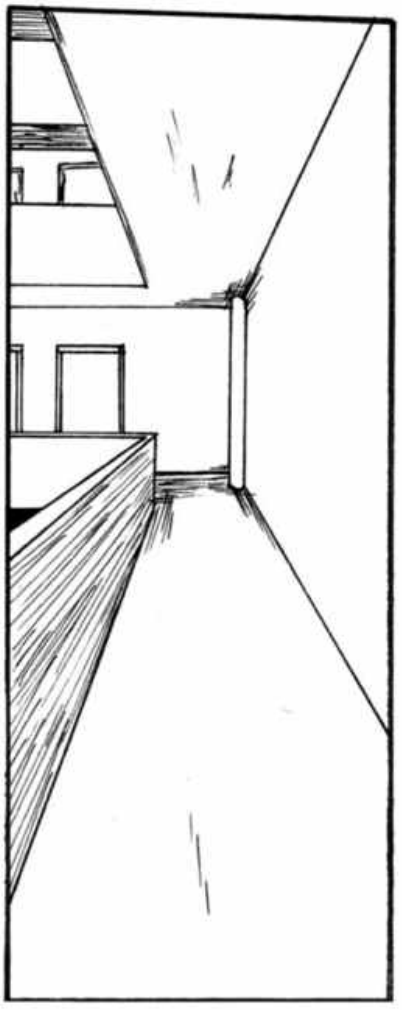
ガラ
ハァ
063
堪えました
あなたの水も錨も衰えていませんね
よく言うわね
大して堪えてないくせに
今度は
ガチャ
こちらの番です
ドン

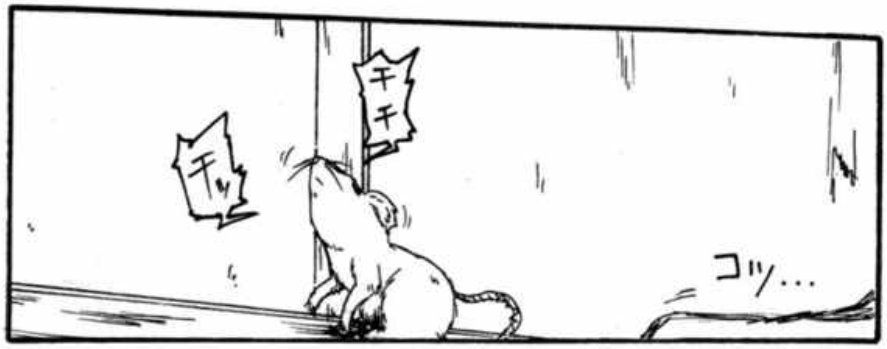
!!
ビビビビ
ビ
ぎッ
!?
ガキャウ

ミシュ
ガッ

正義の威光からは誰も逃れられません
観念しなさい


村紗




チチ
チッ
コツ…

ここか

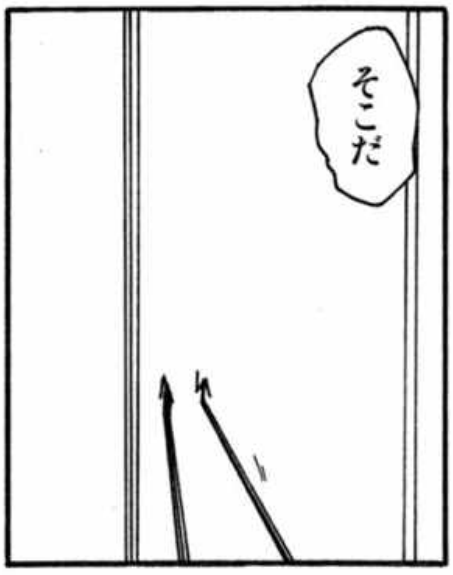
ワッ

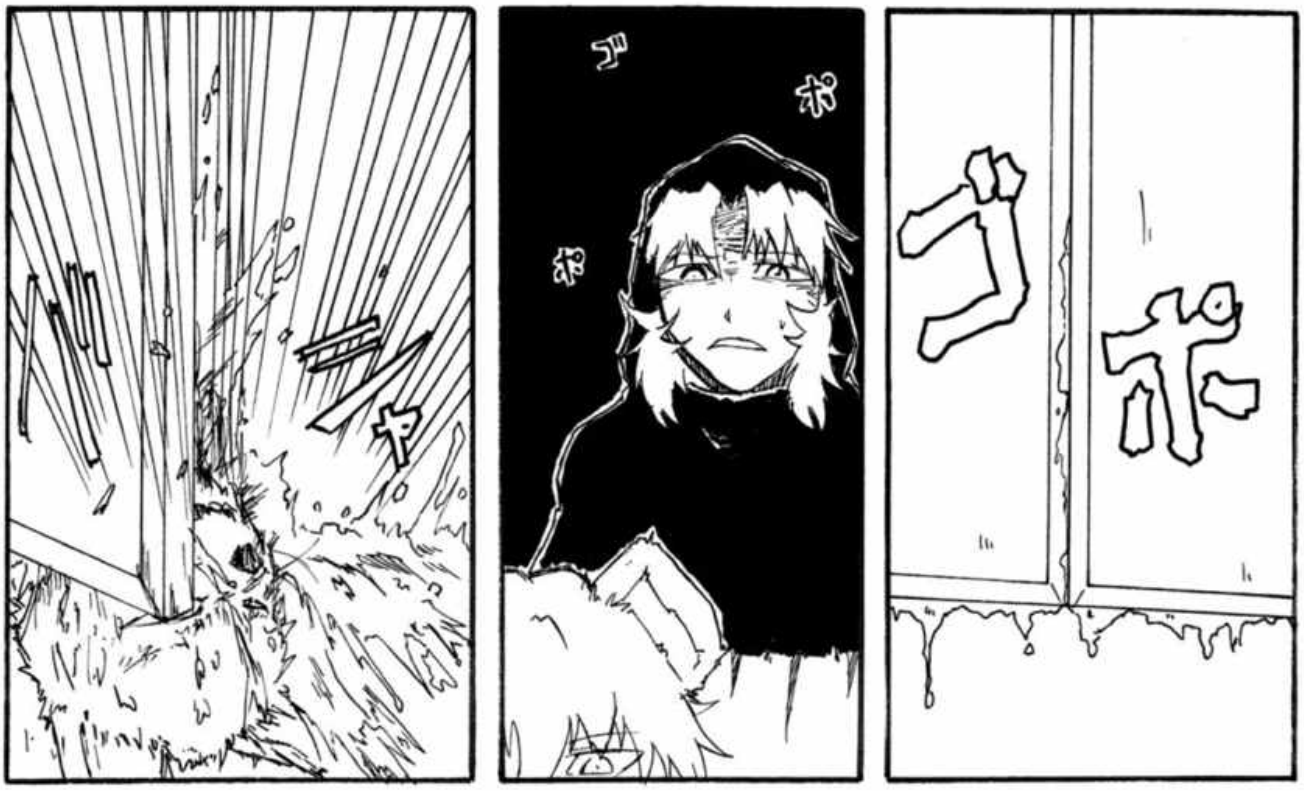
……

ギイッ…

ここって…誰もいないじゃない
それに声をかけたのはひとりやふたりじゃないのよ？

大丈夫だここにいるよ

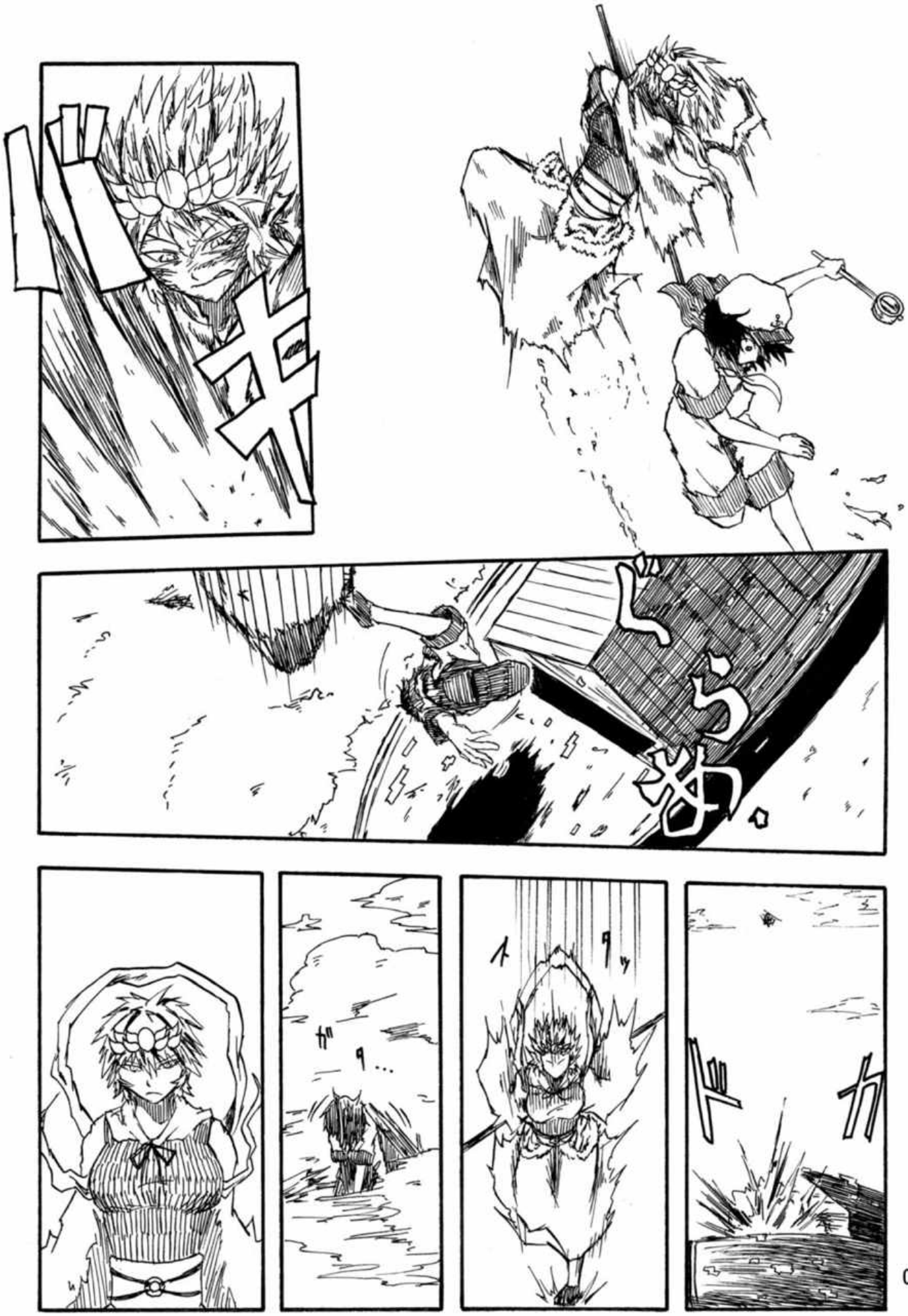

そこだ


ゴポ
ゴ
ポ
ポ
ドン
ドン

あっ……
ここだけじゃない
他にも
まだまだいるね
船に吸収……
捕縛……
大丈夫!?
なにかをする
ための糧……か?
……
……

一輪
地底でいったい
何人に声を
かけた?
急ぐぞ

ドゴォ
ヒュン
ドカ
水さえ当たれば……ッ。
ズ


ドゴ
ドらゴ。
ドカ

ハア
そろそろ限界のようですね
村紗
ハア
ハア
……はッ
まだまだッ……
あんたなんかに私の邪魔は……ッ
……もはや時間はかけません
あなたも疲れるでしょう
ス
ドドド

聖を刺したもので
私も刺す気？
……聖
いいわ刺して
聖の中を通ったものを
私も感じてみたい

ぐっ……く
ギラ…ッ
ズギ
聖を貫いたとき
どんな気分だった？

教えて欲しいなあ
正直に
ねえ
星？
バシッ
……村紗
苦しそう
ゼッ
私そんなにいけないこと言ったかな

でも
これで
ゲゲゲ
ドン
対等ね

ガララ…
船は餌を取り込み
儀式はもう完成するでしょう
ドクン
合わせ鏡の向こう過去へ行って
私は聖を助ける
ドクン
聖と私
二人きりの世界
何か言った？星
ドクン
対峙？
ザワ…
ドクン

ドクン
ザワ
ザワ
ザワ
シンカブル
ヴォーテックス
ドー
ゴボ
ゴボ

ゴボ
ゴボ
対等？
こんな水遊びで
虎と？

ガァァァァァ
ザワ
ざわ
わざ
ザワ
ザッ
ザワ
ズル
ザワ
ザワ

NIL

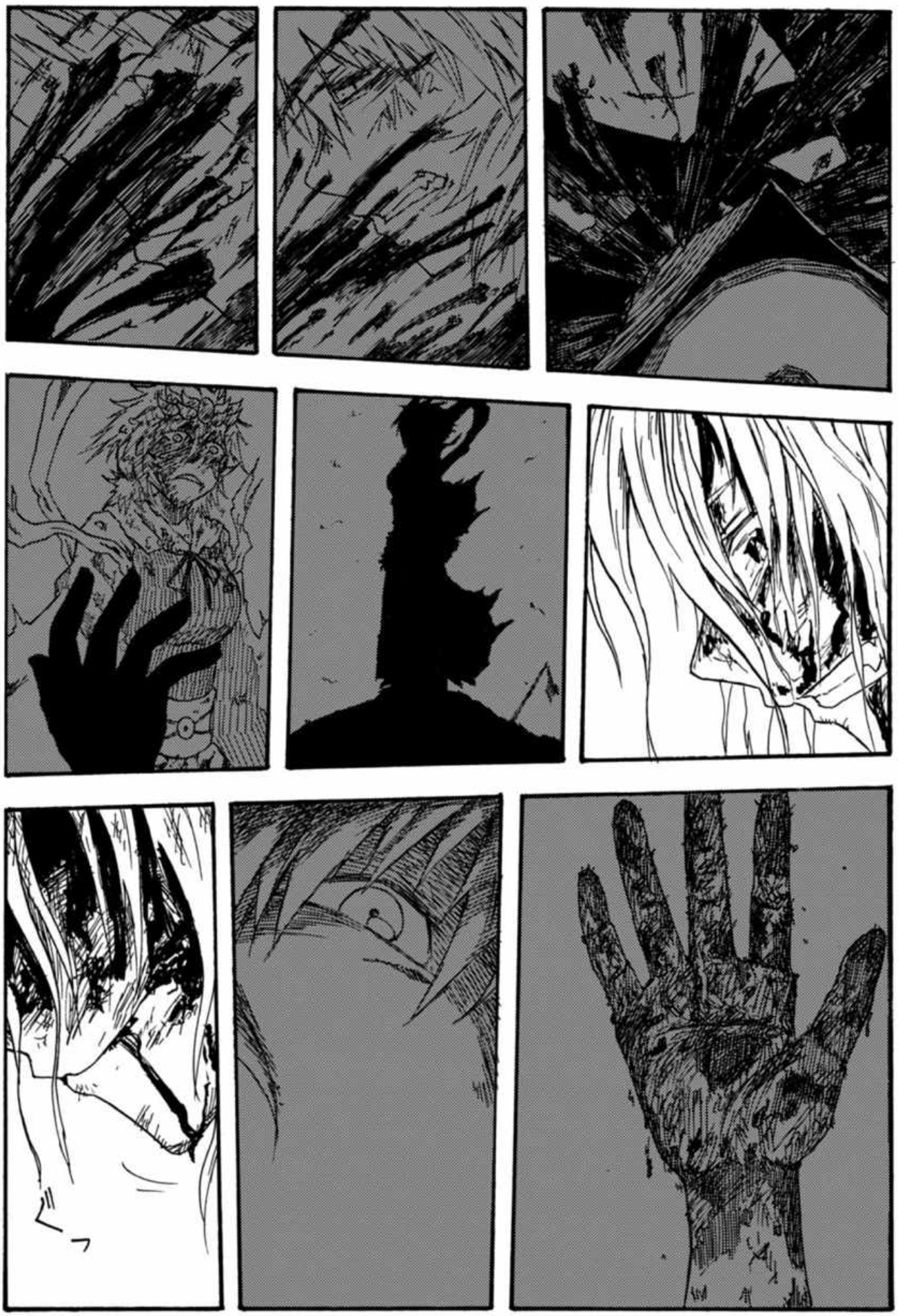
カラーン
カラーン
ピク
ピク
ぐい
ちゃ

ヒュー
ヒュー

ゴクン
ゴクン……

ゴクン

ぐっ…
くぅ…
ドクッ
ドクッ
ドクッ
む……
村紗……
もう
いいでしょう
あなたは
尋ねましたね
聖を
貫いたとき
ザワ
ザワ
どうだったか
ハァ
ハァ



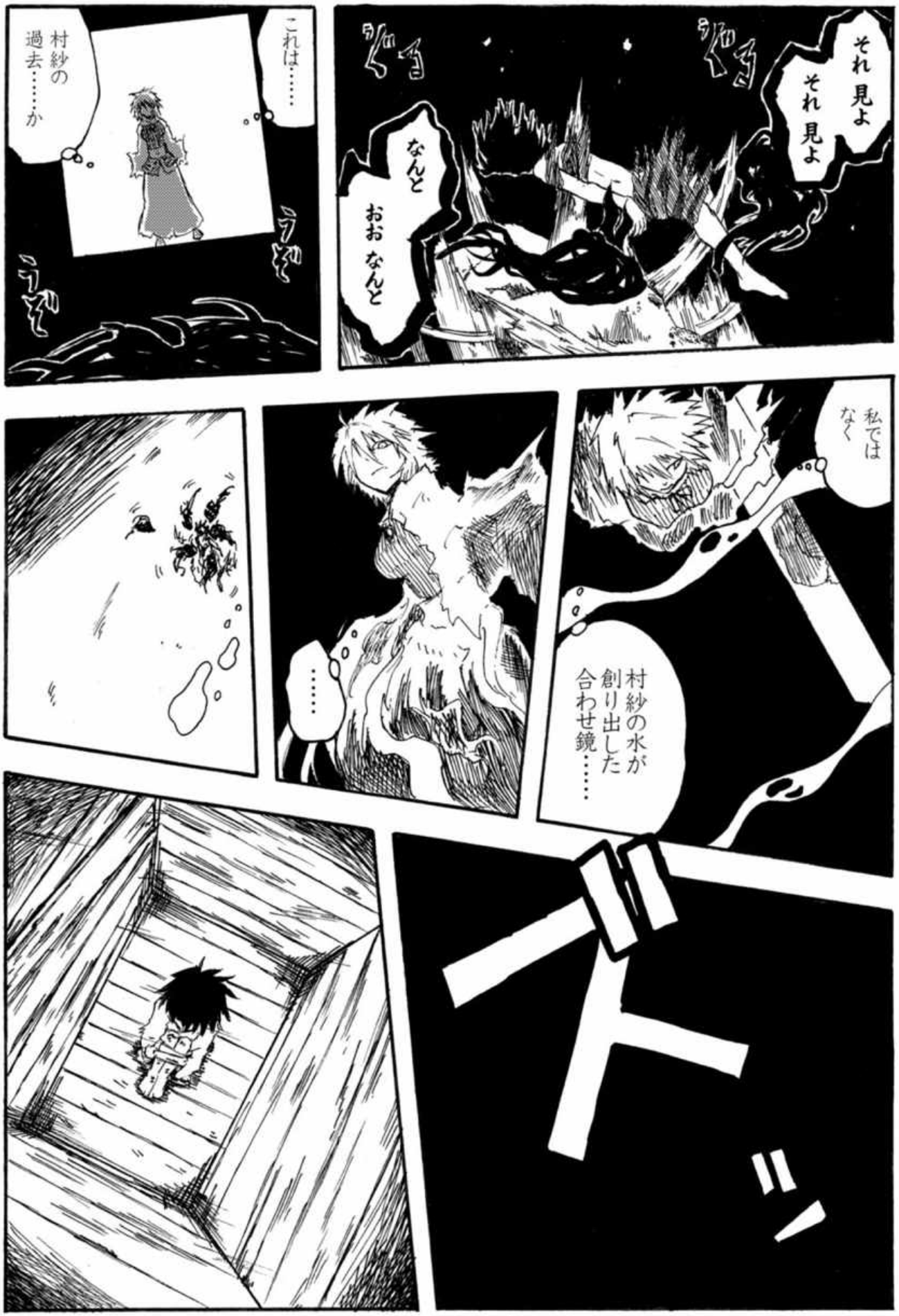
痺れるように よかった
あれほどの心地よさを
私はいまだかつて味わったことがなかった……
認めますっ
私の薄汚い欲望を認めるからっ
だから
もう
これ以上
聖を貶めないでください
聖を貶めないで

聖に抱く想いを
薄汚いなんて
じわり
じわり
じわり
じわ
じわ
村紗
ざぶ
じわ
ざぶ
じわ
じわ
じわ
じわ
じわ
じわ
と
ぷ
ん

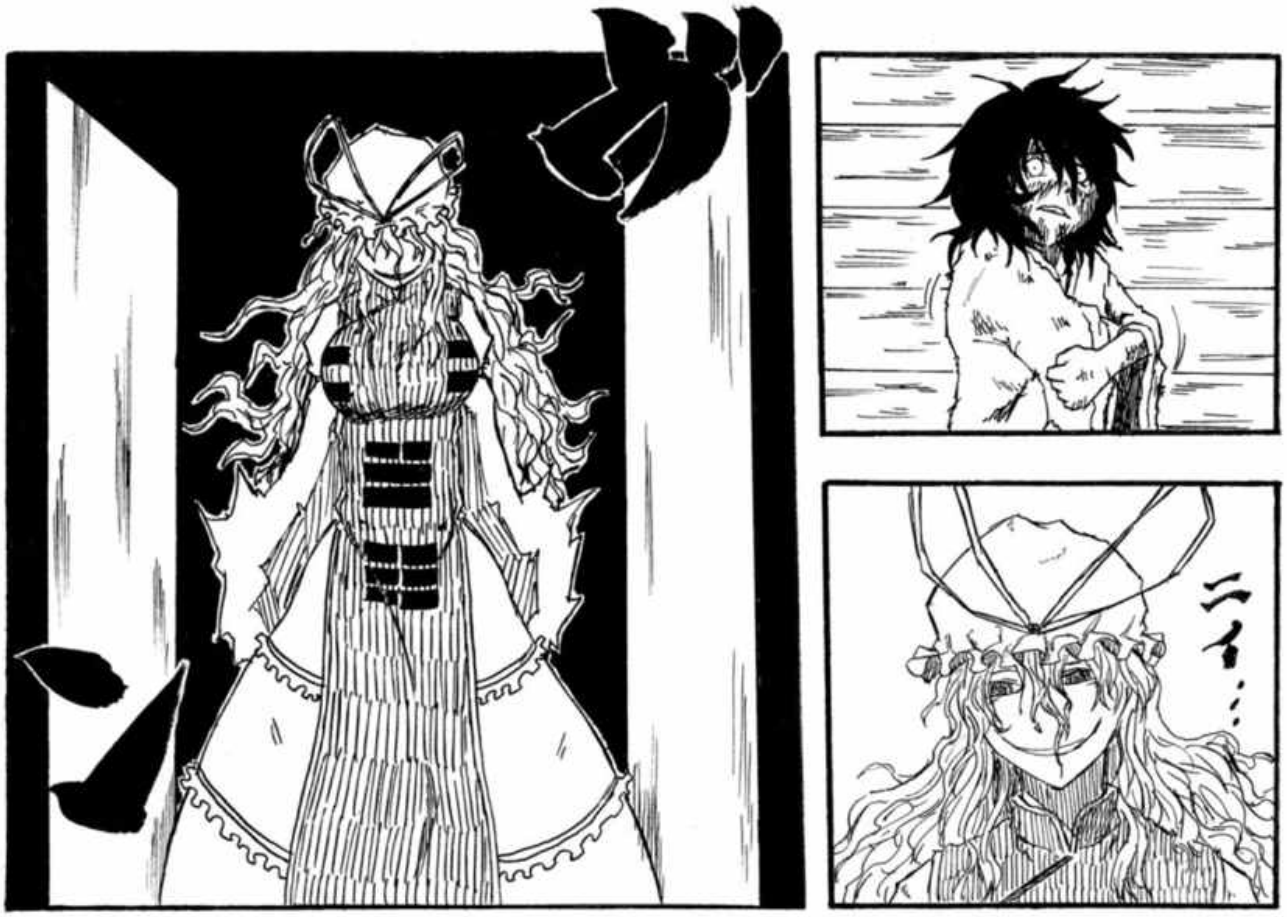
!!
……!
村紗ッ
やめなさい
村紗ッ
うん
もうやめたいの

やめたいけど
とまらないの
村紗ッ!!
右には未来が
左には過去が
ガ
ガ
ガ
ガ
ガ

スン
潮……？
……！
ポ
おおう
ついに
ついに
ほう
ほう
来たか
来たか


それ 見よ
それ 見よ
なんと
おお なんと
これは……
村紗の過去……か
私ではなく
村紗の水が創り出した合わせ鏡……
……
ズドッ

ズズ
ズズズ
ズズズズ


ニイ…

こっちの鏡は昔なの
こっちの鏡は先のこと

あなたの水は甘すぎるから
亡霊まで喜ばせてしまうのね
そんなに甘いの
どれくらい？
とてもとても
だって
私に見つかったくらいだから

お姉さんは亡霊なの？
怖いの？
怖くないわ
私ずっとここにいなくちゃいけないの？
いいえ
お家に帰してあげるわ
また会うことになるかもしれないけど
ズ
ズ
ズ
ズ
ビシッ

ドクン
ドクン
ドン
ズ
ズ
ズ
ズ
カラ
カラ

うん
この仏はいいものだわ
生前は結構徳の高い人間だったかもしれないなあ
この背中から腰にかけての形がいい
カロ…
まあ
ごろん
たいしたことなかったけどね

ゴーゴー
私の水の前では
水の使い方を覚えたのは幽霊になってからだ

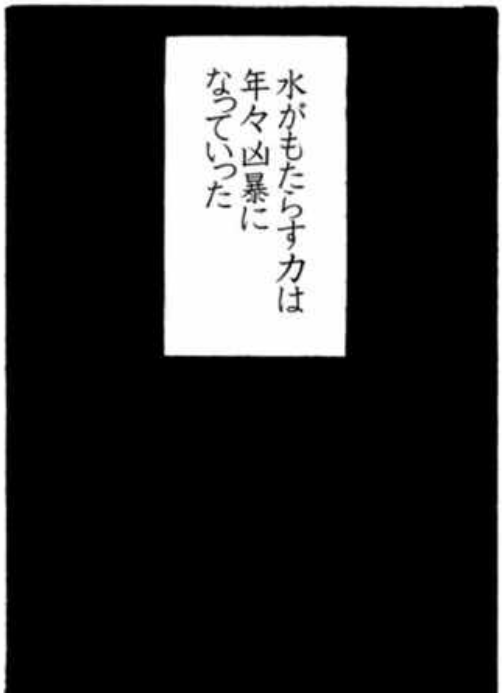
死ぬ前は水の異変に事欠かなかった

日照り続きの日には私の井戸から水が溢れた
私に辛く当たった女の家が洪水で流されたり
他にも川が逆流したり村道がまるごと沼地になったりもした

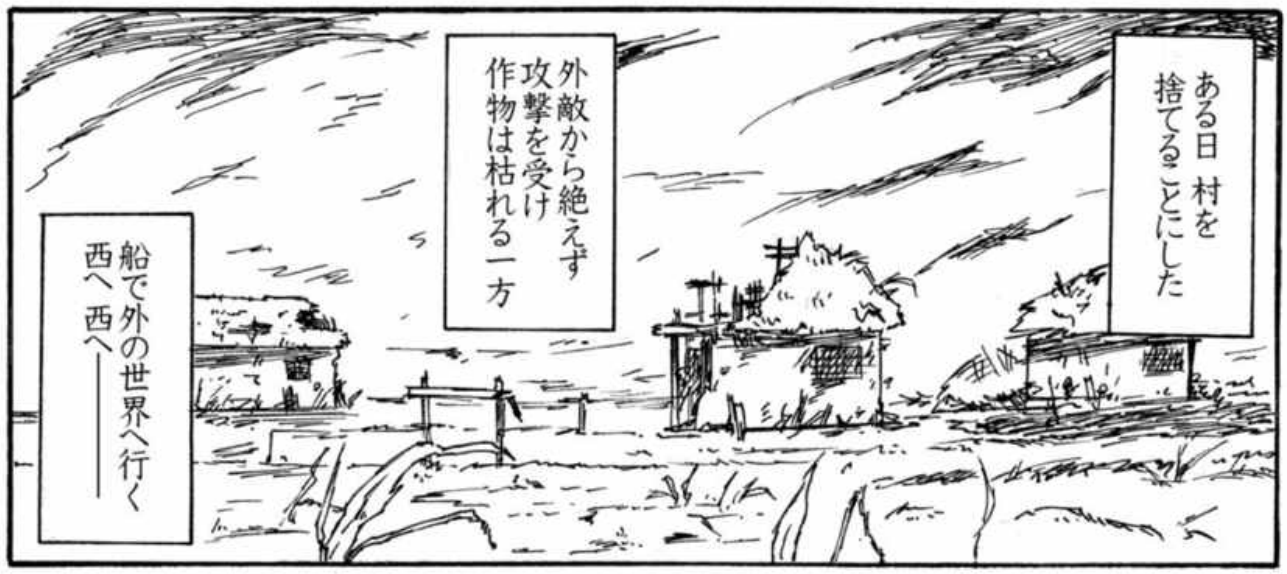
そうやって私が招いた水には必ずと言っていいほど

亡霊が混じっていた

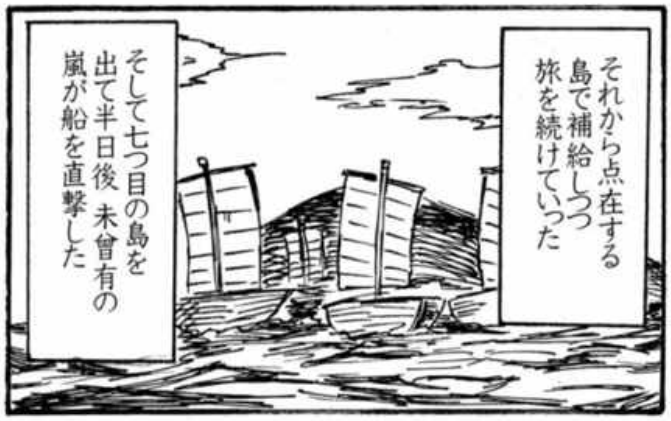
私を畏れる
ひとは多かった

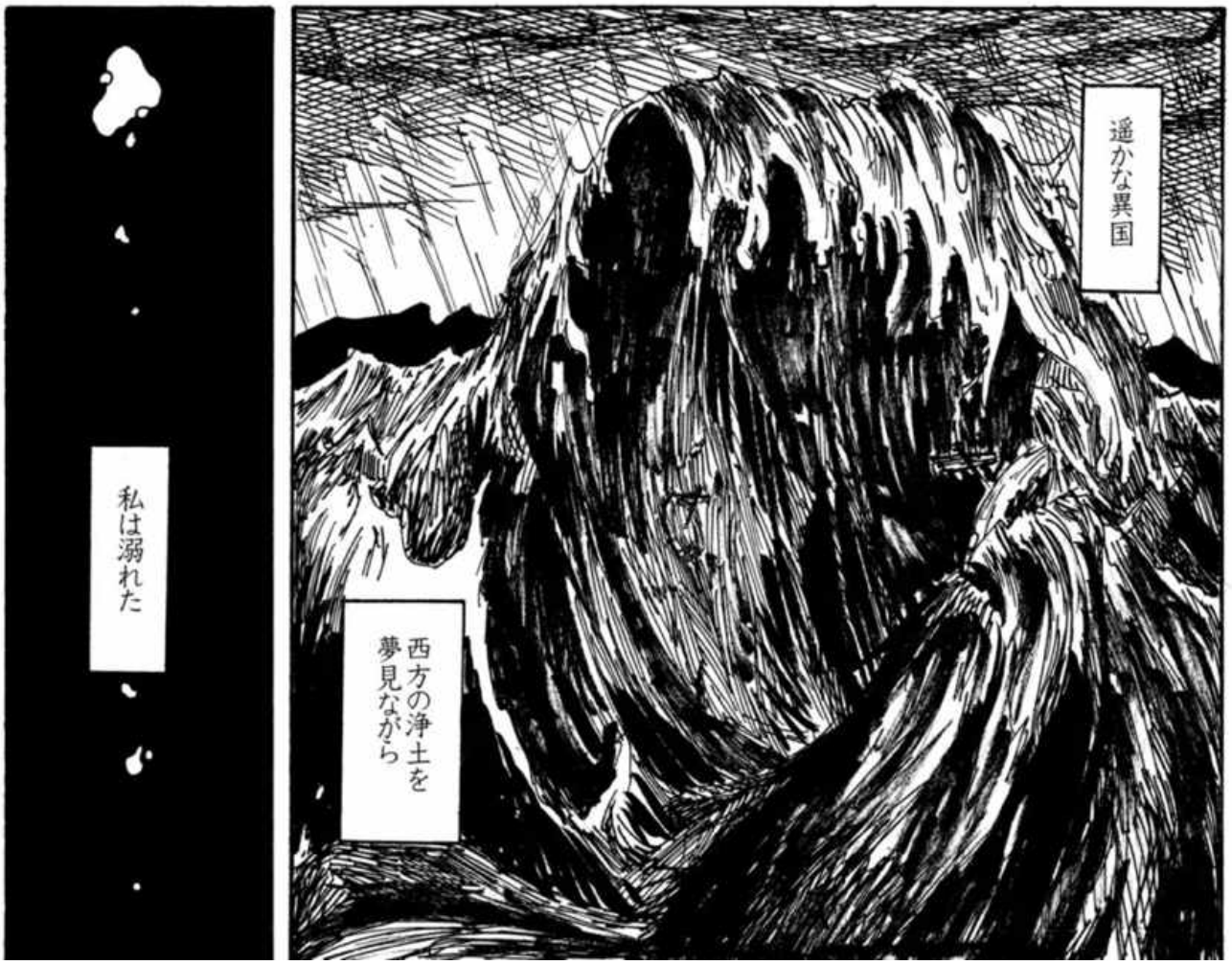

水がもたらす力は
年々凶暴に
なっていった

でも友だちも
多かったし
当たり外れが大きいと
漁や博打好きの
船長たちには好かれた


ある日 村を
捨てることにした
外敵から絶えず
攻撃を受け
作物は枯れる一方
船で外の世界へ行く
西へ 西へ――――

私は村で一番の船に
乗せてもらった
目的はどうであれ
長年憧れていた船に
乗ることができて
私は舞い上がっていた


それから点在する
島で補給しつつ
旅を続けていった
そして七つ目の島を
出て半日後 未曾有の
嵐が船を直撃した


遥かな異国
西方の浄土を
夢見ながら
私は溺れた

ほほう
ムラサ
ムラサおう
僧侶 おう
僧侶ぞおお
へえ

……
ただ者じゃない
強い
眩しい
強いぞお
さああ
どうする
どんな
人間だろう
……

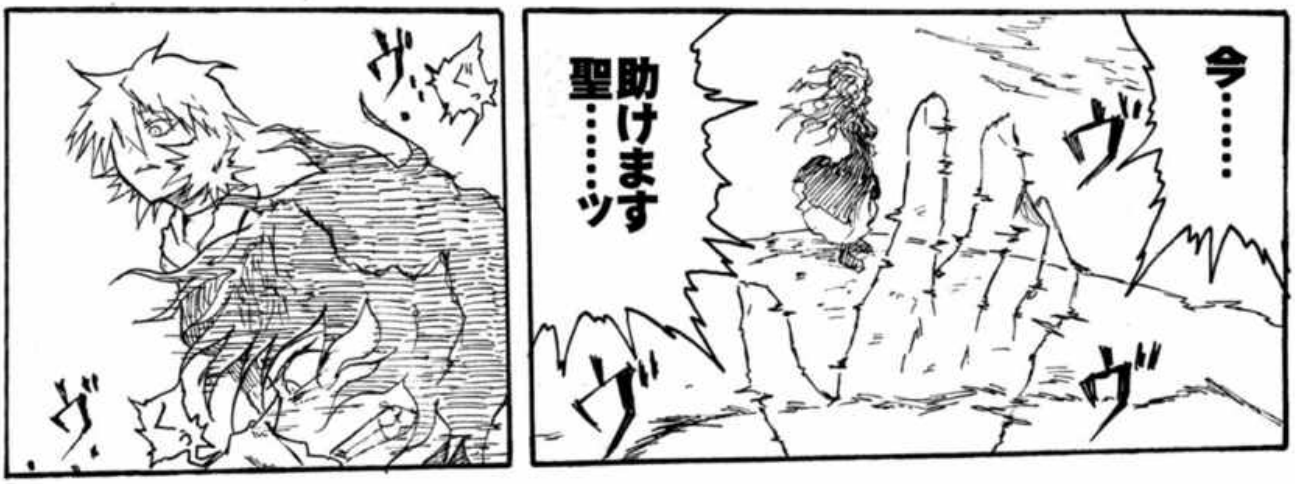
トッ
この後
村紗は聖と出会い退治される

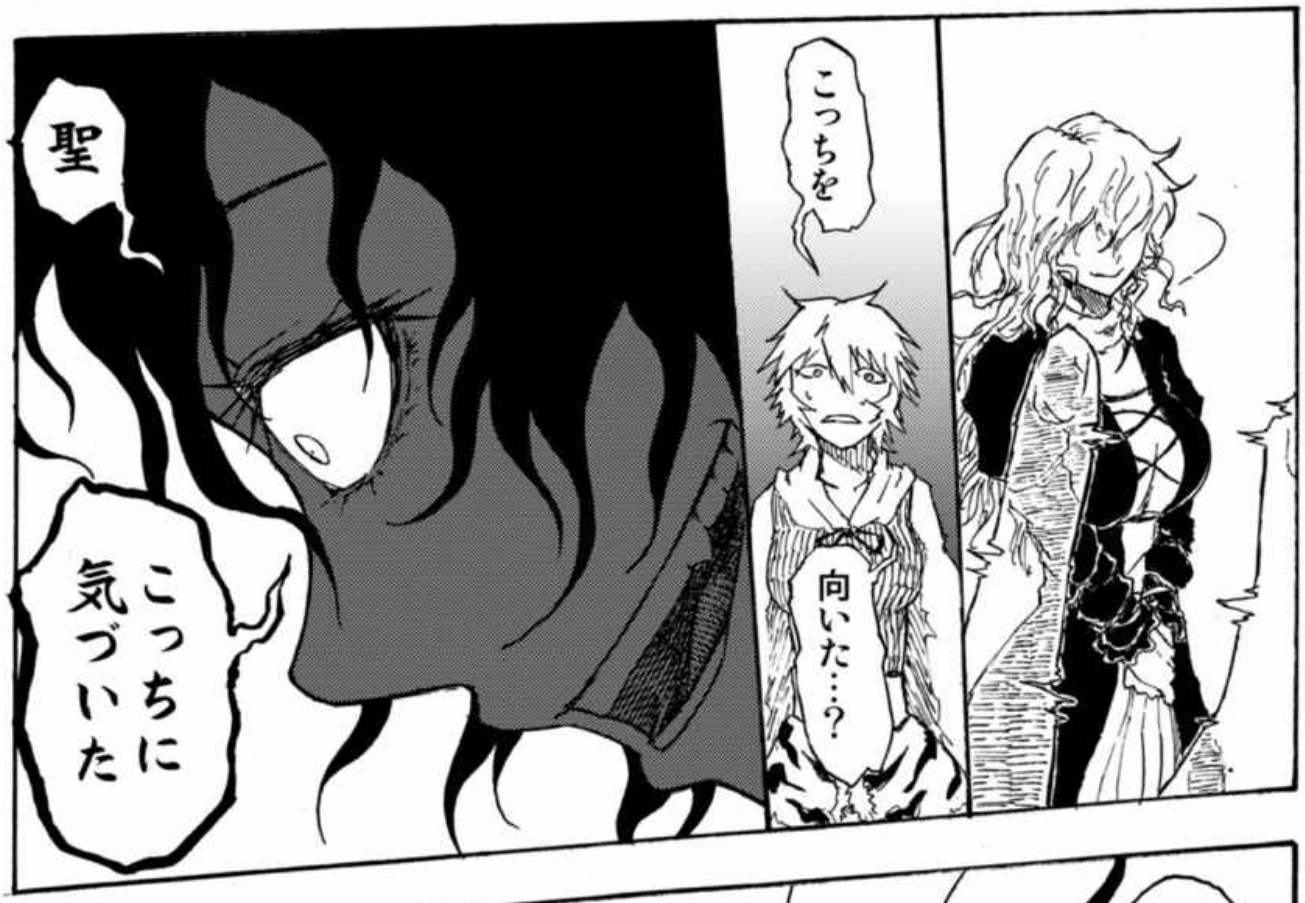
私はこの話を聞いているけど
ふたりの思い出を見るべきじゃない

ズ…
ズッ

まさか
ヒュン

聖の
悦に浸り
あの時
一度と
この手で
見たくない
聖王！
!!
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ、
スゥ〜〜…
聖
待って下さい


今……
ヴ
ヴ
ヴ
助けます
聖……ッ
ゲ
ゲ


こっちを
向いた…？
聖
こっちに
気づいた

本当に
気づいた…？
いや
違う
これは村紗の
過去……
思い出……

ああっ
もうっ

私の体……
邪魔をしないで

おう
おうムラサよお

村紗
船幽霊に戻るのですか

おかしいなあ
聖にさわれないよお

あと一枚
あと一枚
この鏡さえ割れば行けるのに

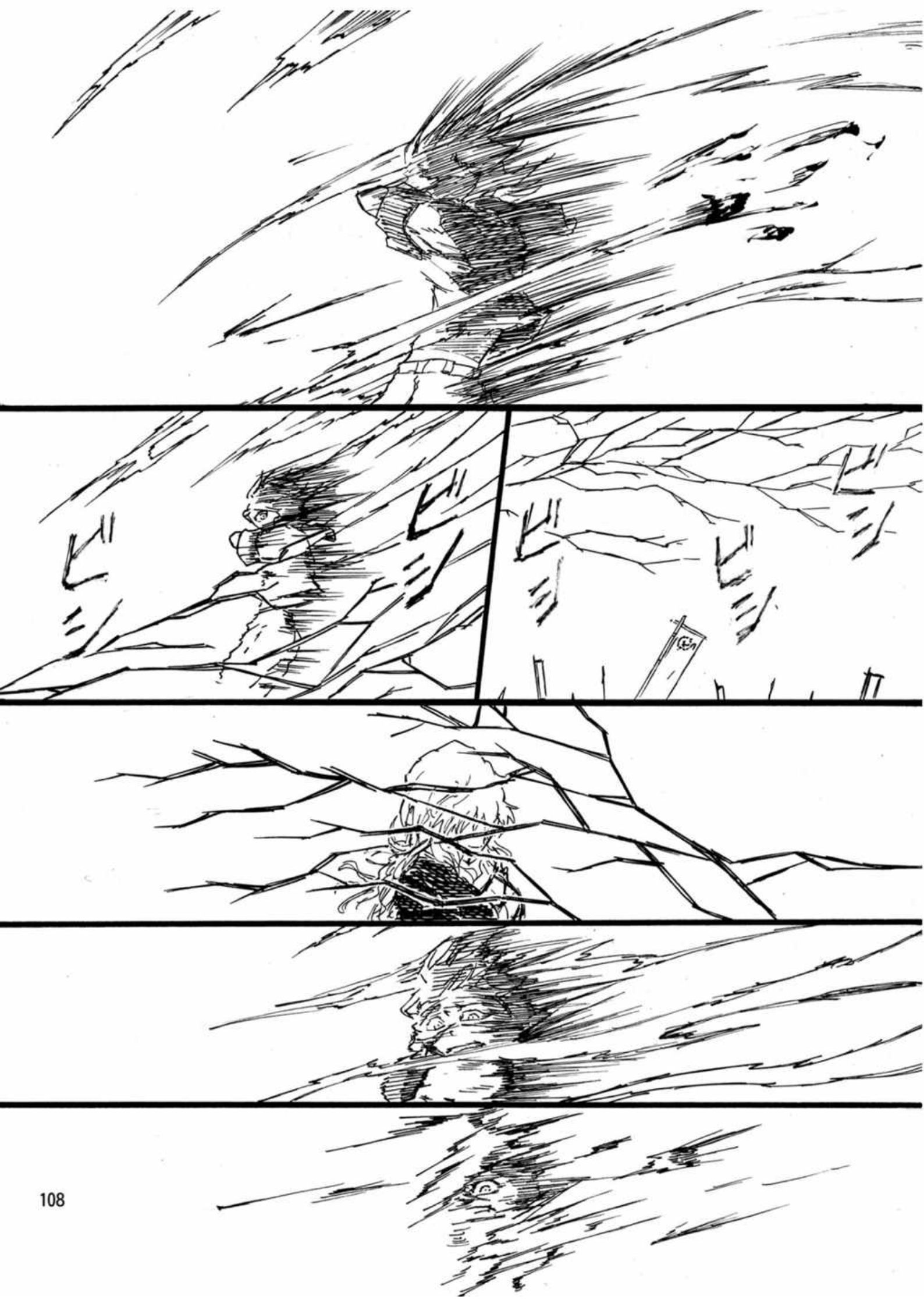
おう
おう
餌が足りぬのだ
ムラサ
そう
餌
そう
そおう
この水にたっぷりと吸わせるのだ
餌の命をな
命の水は
鏡を超える
そうね
ゴボ
ゴボ
ゴボ
ゴボ
ゴボ

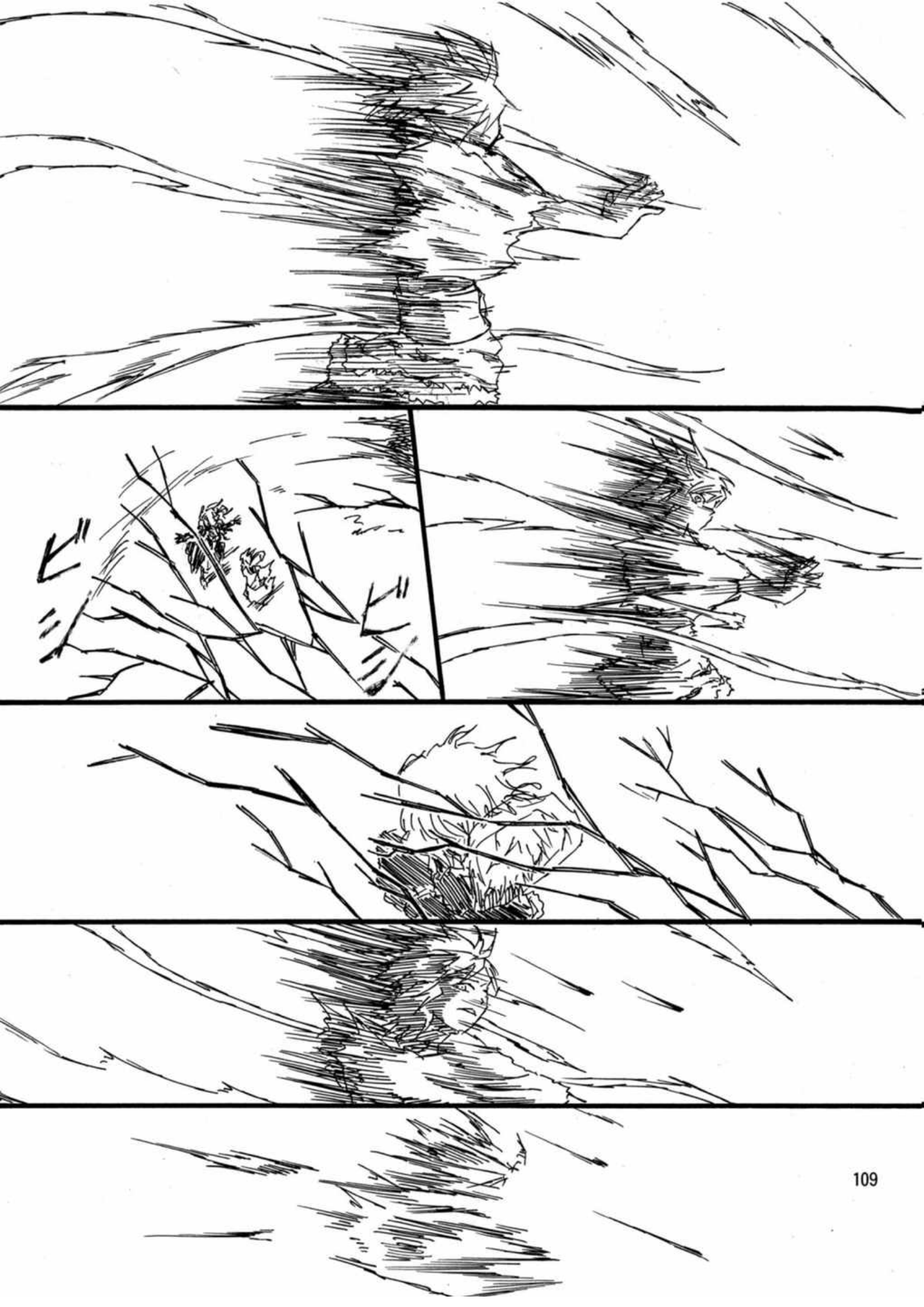
ズ
閉じこもるの
聖とふたりで
誰にも邪魔されないところで
ゴボ
ぞ
ぞ
……ッ

わかりました
話がとても
わかりやすく
なりました

私がもっとも
すべきことを
あなたは
示して
くれました

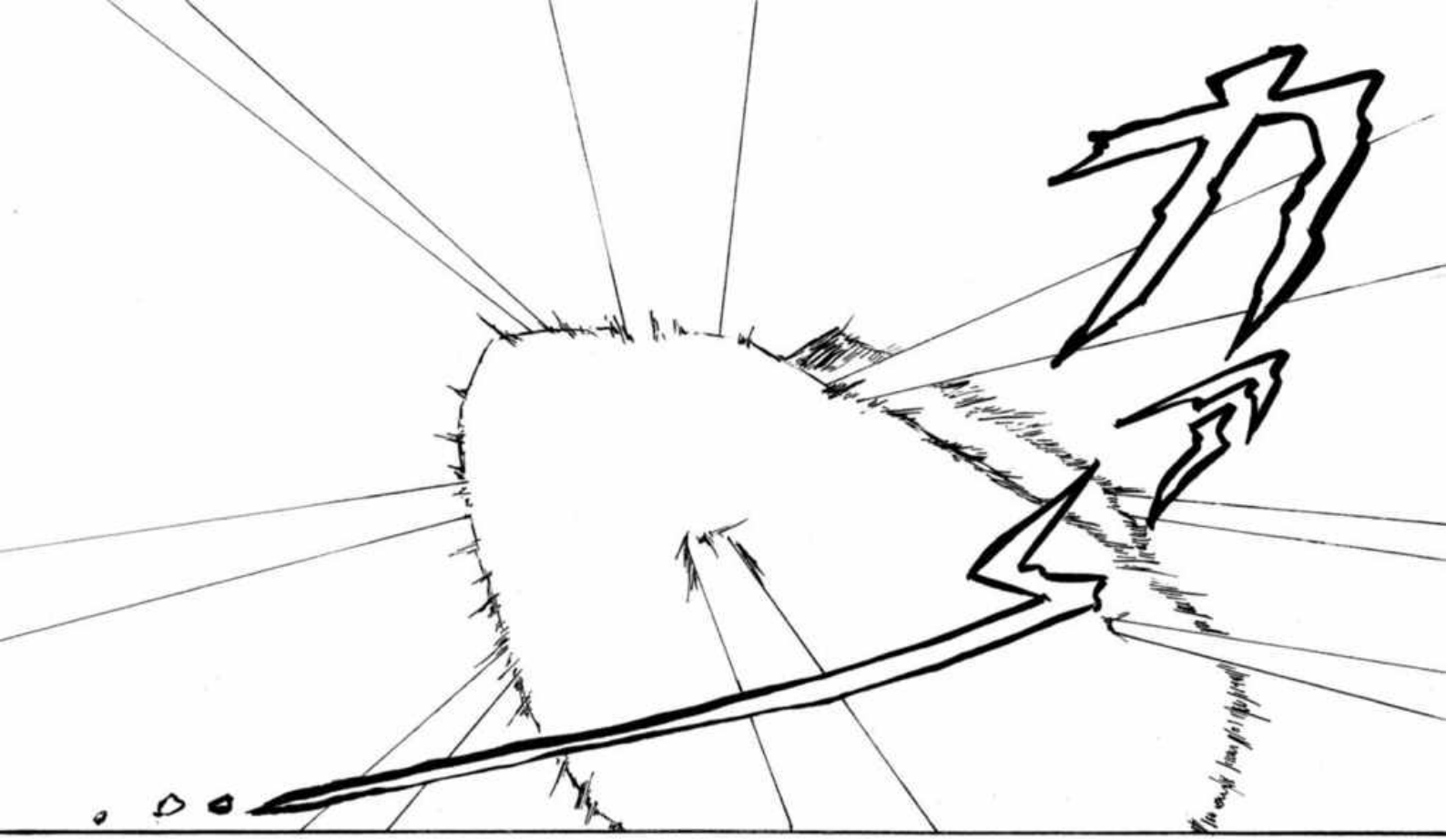
魔を祓う力
これは
聖すら私には及びません
なぜなら聖は魔をも受け入れる
村紗
かつてあなたをそうしたように
けれど私は魔を祓うことしかできません
祓うことに関しては誰よりも勝っています
あなたの過去から手を伸ばしてくる亡霊も
例外ではない
ドン
コンプリートクラリフィケーション

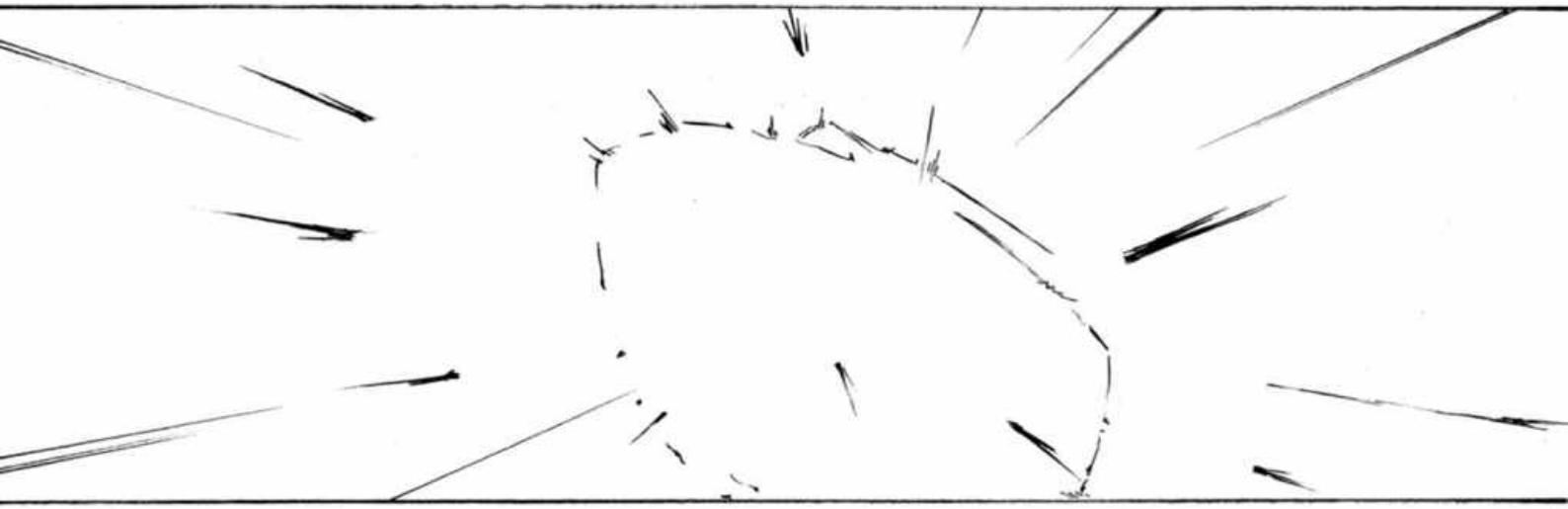



ビ
ビ

よし
君で最後だ脱出するぞ
ほらつかまって
すまねェ
!?
一体なんだ？
なんかやばそうよこれ……！
ご主人のほうでなにかあったのかもしれない
なんにせよ早く脱出したほうがよさそうね
……つぐなかなかに重いな君は！
すまねェ
ゴゴゴゴゴゴ
ビシビキビキ
早
ビシ
あッ……

……
…？
!!
雲山ッ
どうやら君の相棒は
脱出経路を作ってくれたようだ
救助したひとたちを見ててって言ったのに…
どうやってここまで？
壁を壊して
一直線のね
村紗は怒るかしら
これくらいは大目ににみてもらわなければ
行こう





ん……

くっ……

はッ

モク

モク

……雲山！助かった！

感謝する！

……ご主人も

随分派手にやったもんだ

ジャリ…
村紗
大丈夫ですか
無粋なこと
しないでよ
せっかく聖と
ふたりきりに
なれると
思ったのに
それはもう
立ち止まって
しまった聖
でしょう
それなら
あなたの記憶の中の
聖と何も
変わりはない
あなたは
思い出だけで
満足できますか

ううん

もっと新しい聖に触れたい

色んな聖に触れたい

色んな話をしたい

もっと

もっと

飽きるほど

貪るように

そうでしょう

そうでしょう

ふたりで閉じこもれば それで満足だなんて それは嘘ですよ

あなたは自分に嘘をついていた

半分はね

でも

半分は本当だった

ハァァァァァァ…

疲れた

疲れたわ

どうして浄化しなかったの

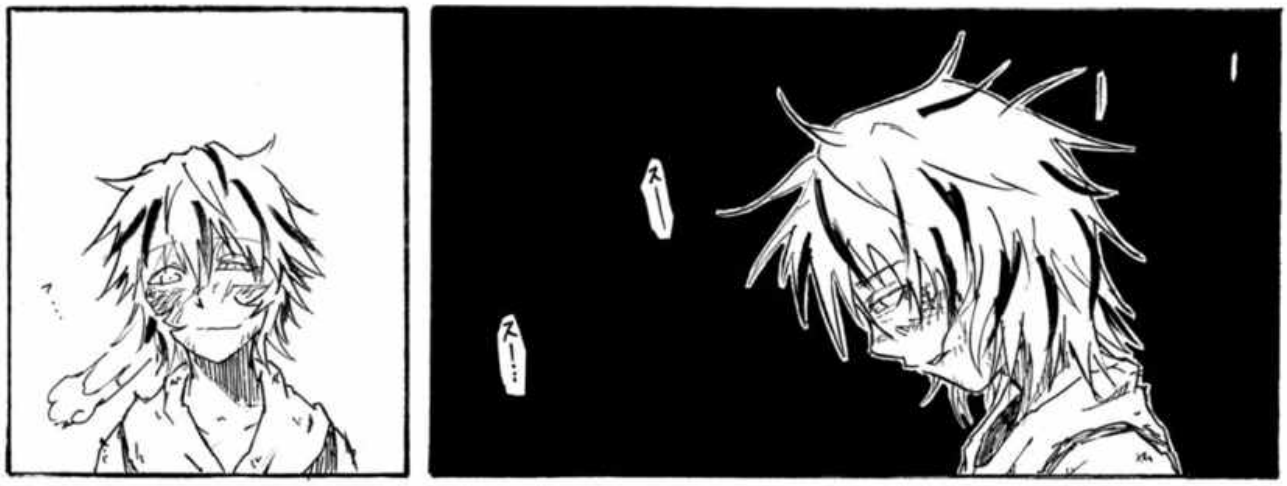
どうせもう私はここからいなくなるのに

村紗 あなたは……

こんなことした

もうみんなとは

いれないよ


ス…
ス…

ナズーリン

ご主人
ああ……
無事でしたか

……
やっぱりいいな

心配したんですよ
ナズーリン

よかった……

？
どうしたのですか？
やっぱりこういうご主人が
私は好きだ
あなたは強い
それに優しい
ボロ
あれ
どうしてでしょう
私いけませんね
ボロ
なんだか子どもみたいですね
ボロ
ふふん そういうご主人も
まあ
悪くないかな

よかったわあ
みんな戻ってきて
誰も戻って
こないから
どうしようかと
思っていたの

え……どうして
だって私は……
わーすごい
あんなこと言われて
はいそうですかって
帰れるわけないでしょう

……
これは

ぞろ
おお
ぞろ
これはすごい

仮にもお呼ばれしたんだから
それなりのことしなくちゃえ

いやあこれは大したものね
さすが神様

このみすぼらしい寺にこれだけの料理が並んだことは
ついぞ私の記憶にはないな

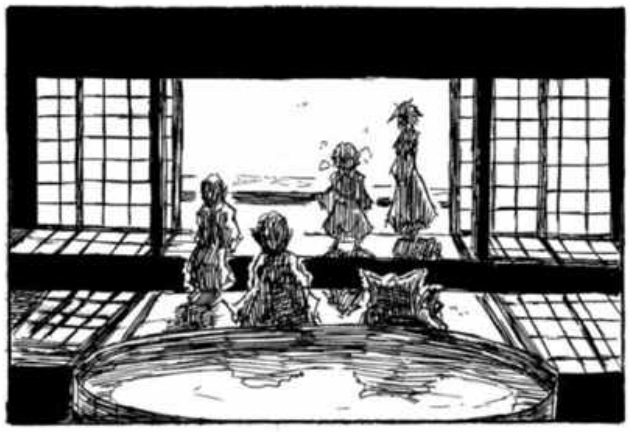
では
お言葉に甘えて

いただきます

それにしても神様
本当よく逃げださなかったわね
見かけによらず勇気あるのね
まったくだ
見たところ戦闘力もたかが知れているようだ私の子ネズミたちより弱いかもしれない
それなのに見ず知らずの寺でのうのうとしていられるのは脳天気か蛮勇かのどちらかだな
ははは……
もしくは余程のお人好しかだな
ペコリ
ありがとう
えへへ
モジ
モジ

ポン
じゃ
秋が何よぉ
私は神よぉ
崇められるわぁ
テンションあがるわぁ
常時秋よぉ
みんな酔いなさいよぉ
ヒャッホーァァァァァァ

……！
おお～……
バーン
ちゃぷ
ちゃぷ
いかがの？



お見事！
パチ
パチ
パチ
酒だ
酒だ
酒

村紗
ビラ
あ……
星
それに一輪

修理に精がでますね

ご飯持ってきたから

山菜の煮付けと

赤米おにぎり

地元の神様が作ってくれたの

おいしいわよー

すっ

すぐ出ていくからっ

みんなに迷惑かけたけどせめてこの船だけは直させて

村紗

あとはうんごめんけどあとは星に運転をお願いする

最初のコツさえつかめばあとは自動操縦だから呑み込みの早い星ならすぐにできるようになるよ

村紗

話をしましょう

私ねわかるの私全然変わってない

変わる気もない

聖を独りじめにしたいって気持ち全然なくならない

みんなと一緒にいたらまたみんなを傷つける

みんなといるのはとても楽しい――
私の居場所があるって思える
ザッ
でもそれを壊したくなる
駄目なの
村紗壁に向かって話していても
何も伝わりませんよ
私はいてはいけないんだ……
私の水がみんなを不幸にする
フィー
みんなのことは好きだよ嘘じゃない
ごめ
ごめ
でも私はみんなを傷つける
それに私は耐えられな
あいたっ
いいから黙って
何すんのよ

村紗 あんた無責任なのもいい加減にしなさいよ
むせき…にん？
そうよ！
あんたがいなかったら誰がこの船操縦するの
みんなで聖に会いに行くって言ったでしょう
私だって
行きたいよ
ガッ
行こうよ
だって
だってまだ……
またみんなで!!
大丈夫!!
バッ

ズ
モ
モ
今度あんたがあんな風になったら
次はこいつで殴るわ
……それじゃあ
次までにはそれを破るような戦法を考えておくね
ちょっと今からあんなになること想定しないでよ
もわ
もわ
大変なんだから
気をつけるわ

村紗
あしょ――
プス
あいっっ
プス
いたっ
プス
プス
や痛いって
プス
ちょっ…
プス
痛いって
ちょっっと！
けしからんことを
言うからですよ
罰……かしら
今の

いいえ
罰はあの闘いの中で
あなたが受けた痛み
それですべてです

今のはこの船を
出て行くなんて
言うからですよ

腹が立った
のです

ううう

洞察が足り
ませんね

あなたの悪い
ところです

あなたは
自分だけが
ねちっこく

執念深く

嫉妬深く

他人の
ことなんか
どうでもよくて

自分の欲望が
一番だと
思っている

ううう……ん？

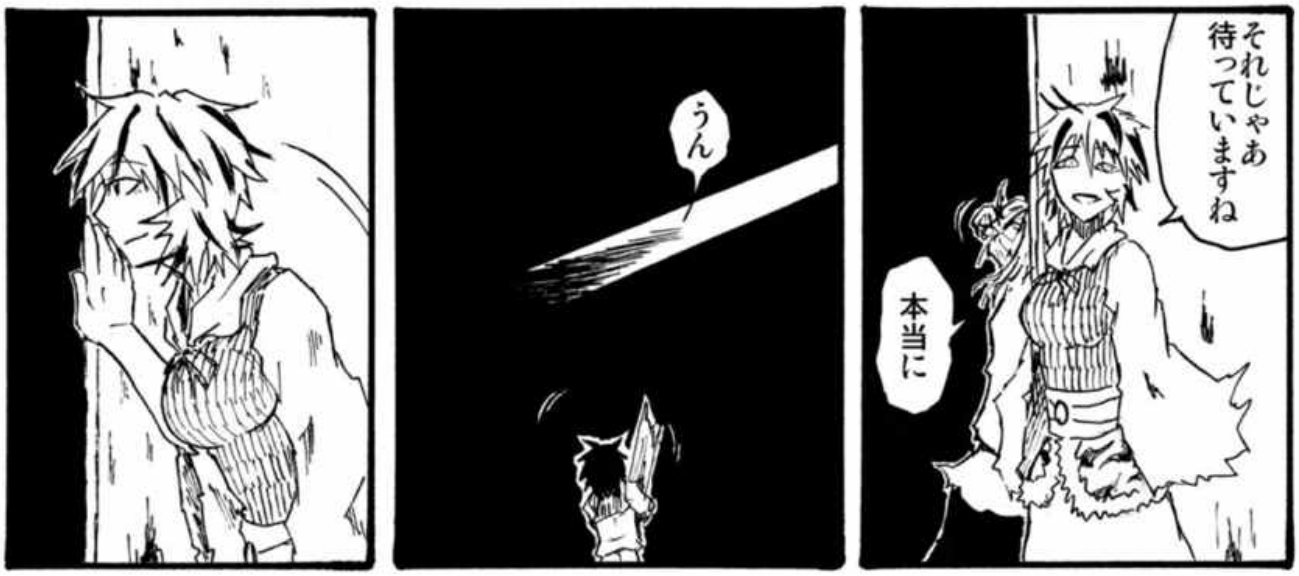
それを
わかった上で

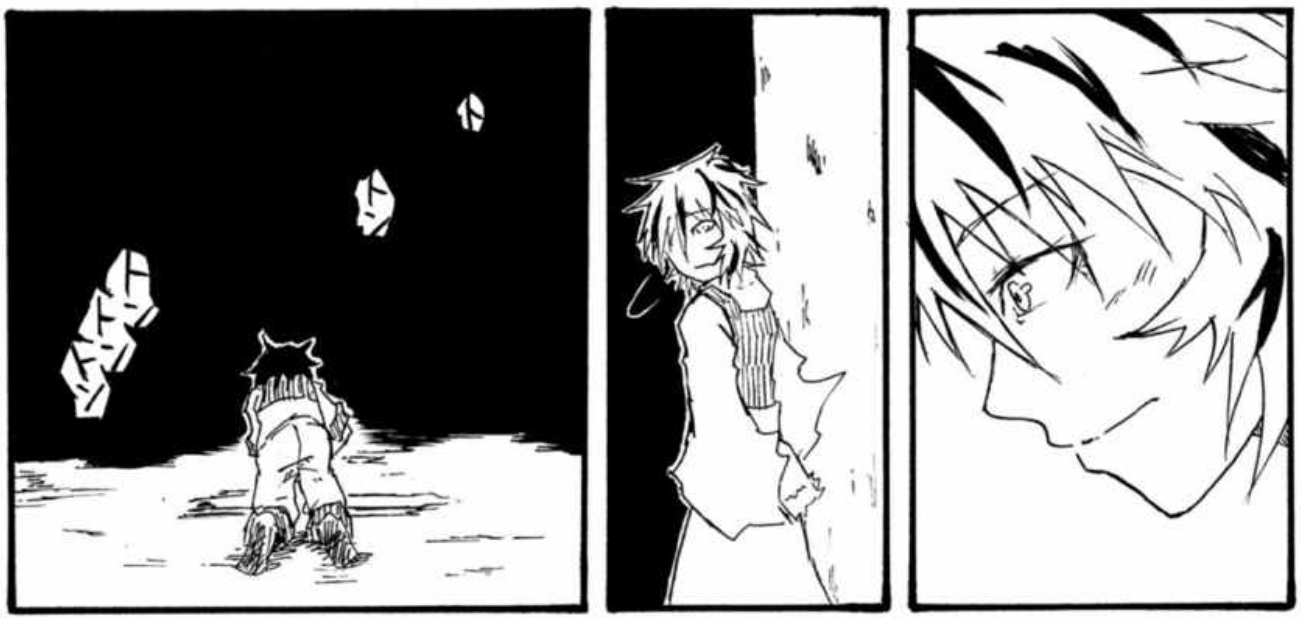
私たちは
一緒にいるんじゃ
ないですか？

ええと
ごめん星
よくわからないわ

友情ですよ
友情
結構そういうことさらっと言うよねぇ
正義とか平等とか
仕事柄そうなるのかしらねぇ
とにかくっ
寺に戻りますよみんな待っていますから
…
！
村紗

とりあえず修理終わらせないと
ガタ
じゃご飯そこに置いとくわよ


それじゃあ待っていますね
本当に
うん


トン
トン
トン

あなたが持っている矛盾

それは

そのままでいいと思います

ピク

……

うん

それが噛み合わなくて

今回のようになったら

遠慮することはありません

何度でも

私たちが受けてたちます

うん…

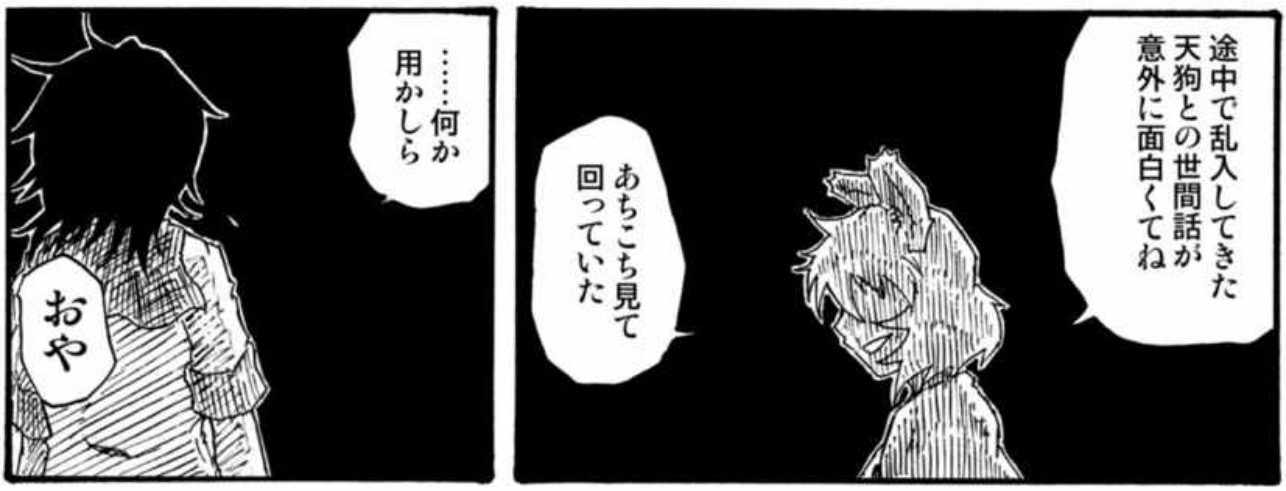
うん

矛盾はなくなりません

それがひとだと思うのです

……星
はい
ありがとう
いいえ
……ごめんなさい
ポ
ロ
ロ
いいえ

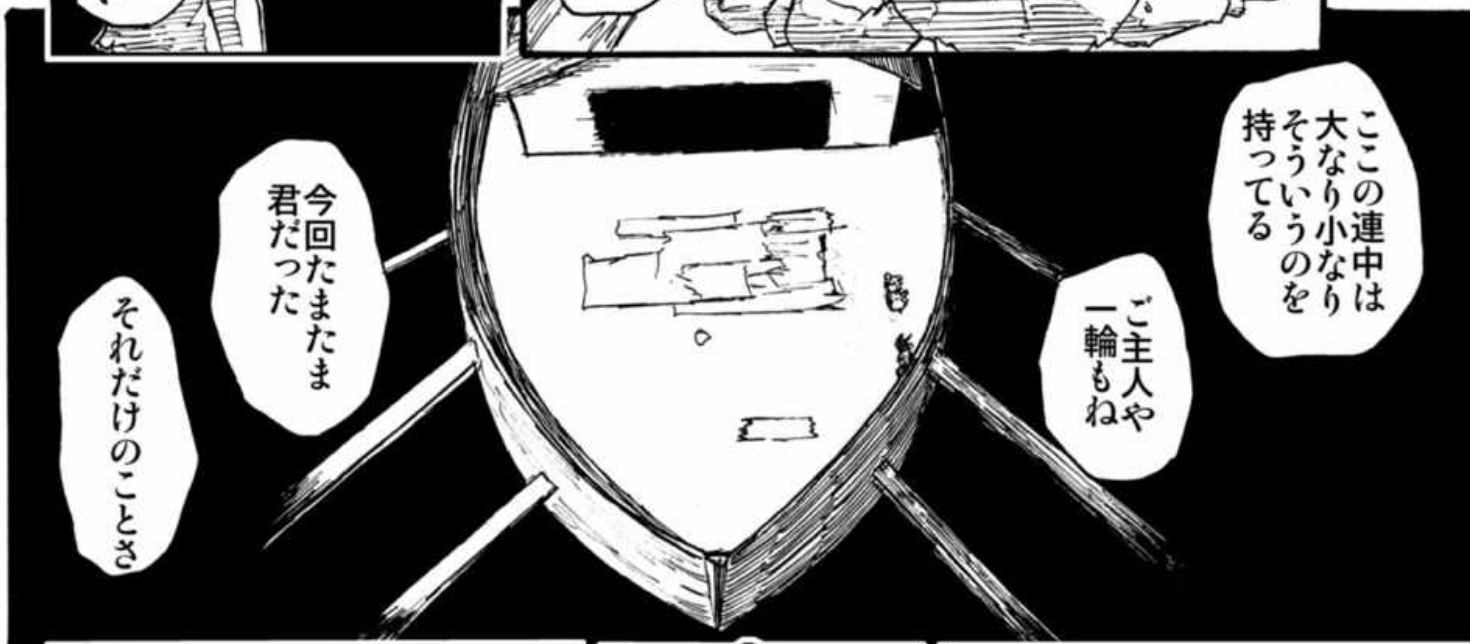
ズー…
ズー
グーゴゴ
さっきは
いなかったね
ナズーリン
席を外して
いたんだ

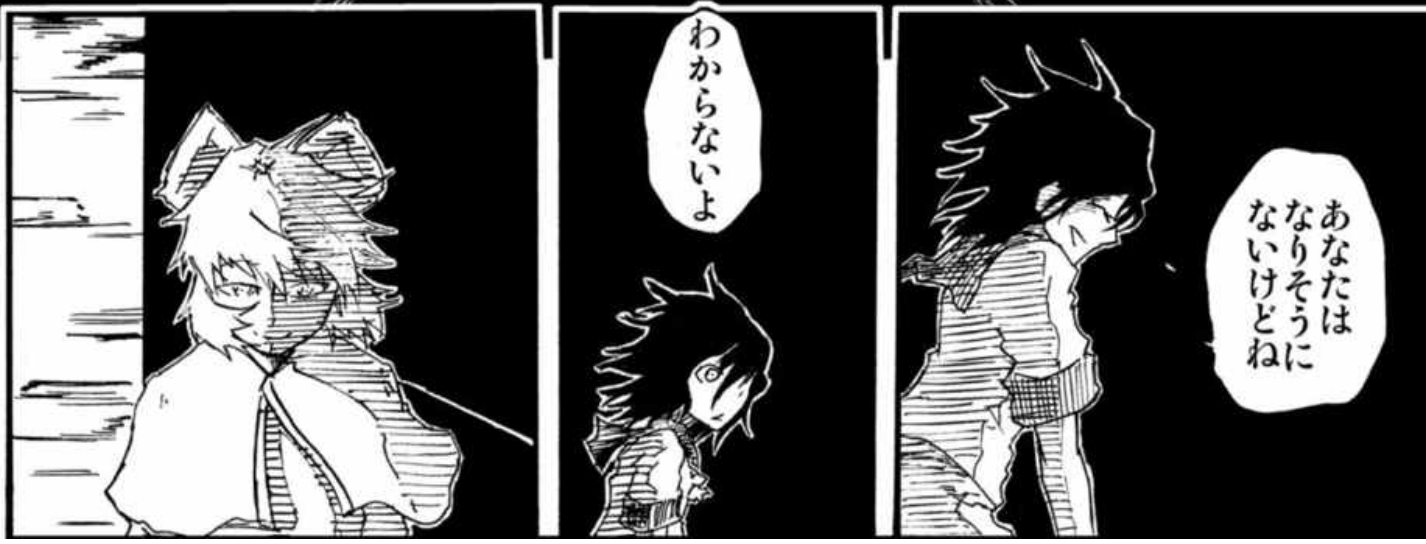

途中で乱入してきた天狗との世間話が意外に面白くてね
あちこち見て回っていた

……何か用かしら
おや

用があるのは君じゃないかな
そう思ってこうして来たんだが

……
……ごめん
謝るようなことでもない


ここの連中は大なり小なりそういうのを持ってる
ご主人や一輪もね
今回たまたま君だった
それだけのことさ


あなたはなりそうにないけどね
わからないよ

わからないさ
自分が本当は
何を望んでいるか

どうすれば
そこに辿り
着けるのか

みんな暗闇の中で
手探りするだけだ

わかっているのは

聖を救いたい
ということだけ

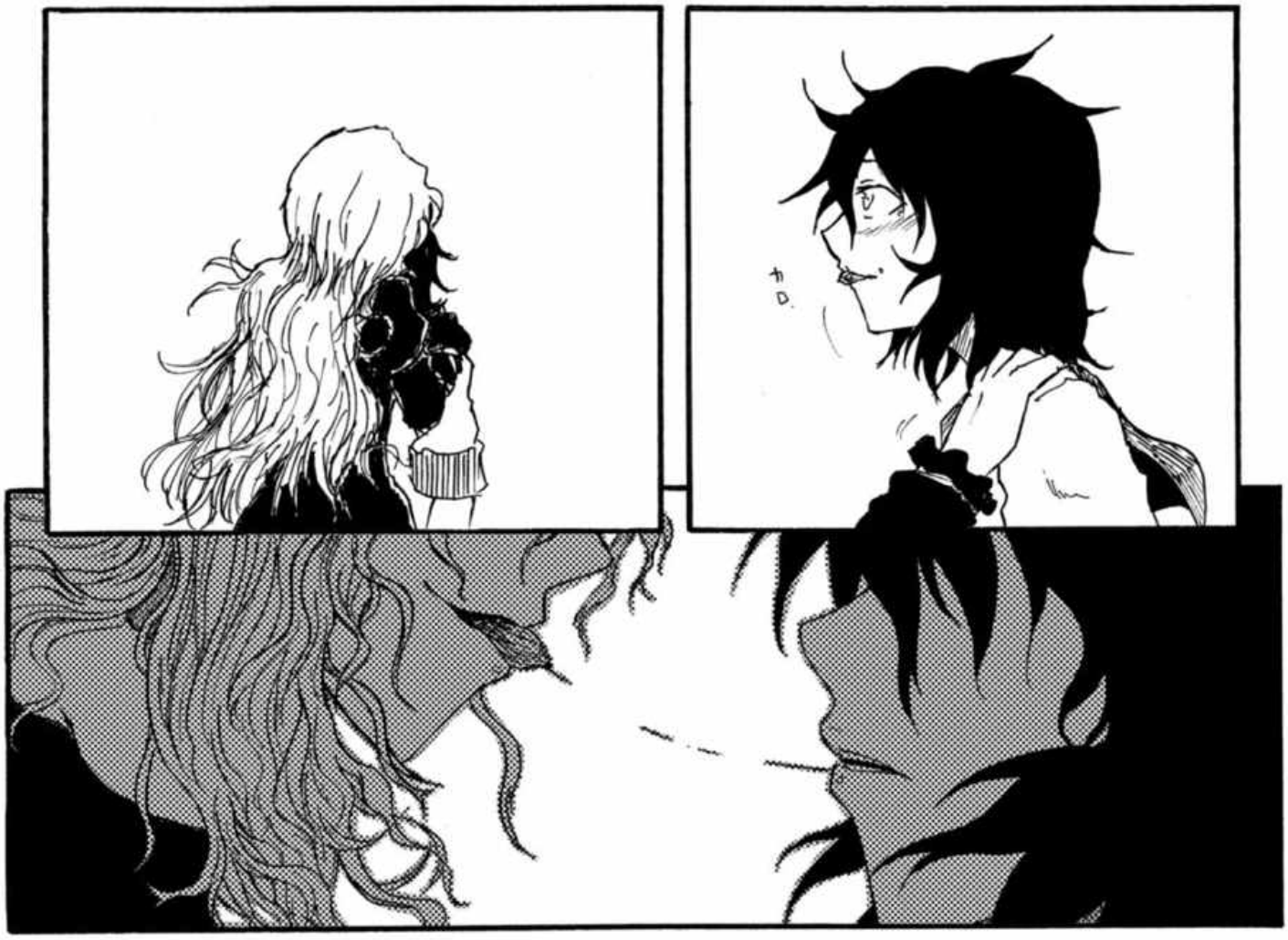
……用は
済んだかな

私は寝る

！
いい仕事を期待しているよ
村紗船長

ここよ

ここの木



あなたと一緒ね

発行日　2014/10/12
発行　劇団文七
文　野田文七（http://gekidanbunshichi.web.fc2.com/）
絵　こゆび　（http://www.pixiv.net/member.php?id=41197）
連絡先　alfettaalfetta@hotmail.co.jp（野田文七）
印刷　くりえい社

この作品は東方Projectの二次創作作品です。